



第47回（令和7年度）

全日本中学生水の作文コンクール

熊本県審査会入賞作品集 「水について考える」

＊応募数24年連続日本一＊



主催：熊本県、内閣官房水循環政策本部、国土交通省

後援：熊本県教育委員会、熊本県中学校長会、熊本日日新聞社

※作文の表記は基本的に原文のままとしていますが、一部訂正している箇所がありますので御了承ください。

第四十七回「全日本中学生水の作文コンクール」熊本県審査会入賞作品集〔目次〕

| | |
|-----------------------------|---|
| ☆第四十七回「全日本中学生水の作文コンクール」について | 3 |
| ☆応募募校一覧 | 4 |
| ☆学校賞・学校奨励賞一覧 | 5 |

【水の作文大賞】五編

| | | | | |
|---------------|-----------|----|--------|----|
| ○水が築く、命への処方箋 | 熊本県立八代中学校 | 二年 | 田川 あかり | 7 |
| ○ここに水があれば | 真和中学校 | 三年 | 清永 皐樹 | 8 |
| ○水の音が教えてくれたこと | 真和中学校 | 三年 | 小松 良太郎 | 9 |
| ○水が織りなす命の舞台 | 真和中学校 | 三年 | 松岡 可恩 | 10 |
| ○熊本の水 | 真和中学校 | 二年 | 島津 優凜花 | 11 |

【熊本県賞】六編

| | | | | |
|----------------|---------------------|----|-------|----|
| ○私たちが知らない水 | 熊本県立八代中学校 | 二年 | 上田 華蓮 | 12 |
| ○自然のつながり | 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 | 二年 | 松永 幸也 | 13 |
| ○水の恵み エコな地球を作る | 天草市立新和中学校 | 三年 | 平道 圭樹 | 14 |
| ○君の「水」は誰のため | 真和中学校 | 三年 | 木下 航 | 15 |

○水と共に生きる日々……………真和中学校

三年 田畑 心那 ……16

○「あたりまえの水?」……………真和中学校

二年 頼藤 維生 ……17

【入選】三十七編

| | |
|------------------------------|----|
| ○恩を恩で返す(石炭愛也奈)…………… | 18 |
| ○「熊本の地下水」(内田雄大)…………… | 19 |
| ○大切にしたい熊本の水(田上ゆり子)…………… | 20 |
| ○使い方は無限だが水資源は有限(松永真之介)…………… | 21 |
| ○雨の魔法(宮本早彩)…………… | 22 |
| ○水と我が家の農業(和田夏輝)…………… | 23 |
| ○トマトのために(大場良樹)…………… | 24 |
| ○水が生まれ変わるその日まで(菊川蒼馬)…………… | 25 |
| ○泡から発展(武部葉己)…………… | 26 |
| ○宇宙の水(松永美紗)…………… | 27 |
| ○貴重な資源を大切に(松本彩楓)…………… | 28 |
| ○変えられる未来(村山紗希)…………… | 29 |
| ○ひとりひとりの心がけで変わる未来(山下夏音)…………… | 30 |
| ○当たり前じゃないこと(宮本亜季)…………… | 31 |
| ○落ち着く場所(小田倅輝)…………… | 32 |
| ○「大切な教え」(大田莉緒)…………… | 33 |
| ○おじいちゃんとの魚釣り(尾田桃也)…………… | 34 |
| ○生き物にとって水は(岩本快)…………… | 35 |
| ○つながる、きれいな町(橋本優那)…………… | 36 |

| | |
|---------------------------------|----|
| ○「限られた水」(杉原安寿)…………… | 37 |
| ○豪雨から学んだ水の大切さ(住吉葵依)…………… | 38 |
| ○水と共に(原口柚菜)…………… | 39 |
| ○熊本の水とこれからも(鎌田美咲)…………… | 40 |
| ○自分のために(倉田紗菜)…………… | 41 |
| ○水の伝統(井上るあ)…………… | 42 |
| ○水を大切に使う(岩下愛)…………… | 43 |
| ○「限りある水」(西村そら)…………… | 44 |
| ○熊本の美味しい水(沼尻彩良)…………… | 45 |
| ○水との関わり(杉本理采子)…………… | 46 |
| ○「熊本の水が教えてくれる世界の水問題」(岩村桜子)…………… | 47 |
| ○水の美味しい使い方(野村桃花)…………… | 48 |
| ○熊本の地下水を後世に(萩野啓夢)…………… | 49 |
| ○自然の力(橋之口侑里)…………… | 50 |
| ○当たり前前に慣れすぎない(坂本優月)…………… | 51 |
| ○人魚姫の物語から水について考える(長谷麻央)…………… | 52 |
| ○世界の水不足(林龍一)…………… | 53 |
| ○地下水について(山部懂子)…………… | 54 |

【中央審査会 上位入賞作品】

第47回「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、「水の日」及び「水の週間」行事の一環として、次代を担う中学生を対象に、広く水に対する関心を高め、理解を深めることを目的として、国土交通省及び各都道府県の主催で実施してきました。平成26年3月に成立した水循環基本法で8月1日が「水の日」として法定化され、平成26年度からは政府全体の取り組みとなりました。

1 応募要領

- (1) 名 称…第47回「全日本中学生水の作文コンクール」
- (2) 課 題…水について考える（題名は自由）
- (3) 原稿枚数…400字詰原稿用紙4枚以内
- (4) 募集期間…令和7年4月1日～令和7年5月7日
- (5) 審 査…○熊本県審査会 5月26日～5月28日
○中央審査会（国土交通省）6月27日

2 応募状況

| | 学校数 (校) | 総数 (編) | 学年別（編） | | |
|-----|------------|-----------|--------|-----|-----|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 |
| 熊本県 | 8 | 757 | 145 | 372 | 240 |
| 全 国 | 238 | 7,482 | | | |

※熊本県は、24年連続日本一の応募数です。

3 審査

(1) 熊本県審査会

応募作品の中から事前審査を通過した47編を対象に、5月26日～5月28日に行われた熊本県審査会において、水の作文大賞5編（5編とも中央審査会へ推薦）、熊本県賞6編、入選37編、学校賞3校、学校奨励賞3校を選定しました。

【審査員】（順不同 敬称略）

| 職 名 | 氏 名 |
|-----------------------------|-------|
| 株式会社熊本日日新聞社 読者センター長 | 吉田 紳一 |
| 熊本県中学校国語教育研究会副会長 熊本市立竜南中学校長 | 濱田 浩美 |
| 熊本県教育庁市町村教育局 義務教育課長 | 梅本 和高 |
| 熊本県知事公室 広報課長 | 大谷 智子 |
| 熊本県環境生活部環境局 環境立県推進課長 | 若杉 誠 |

(2) 中央審査会（国土交通省）

全国の地方審査を経て選出された中から、入賞者（40編）が決定しました。

第47回(令和7年度)「全日本中学生水の作文コンクール」応募校一覧

たくさんの応募をありがとうございました。
引き続き来年度の応募もよろしくお願いいたします。

| | 所管 | 学校名 |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 県立 | 熊本県立玉名高等学校附属中学校 |
| 2 | | 熊本県立八代中学校 |
| 3 | 上益城 | 嘉島町立嘉島中学校 |
| 4 | 八代 | 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 |
| 5 | 天草 | 天草市立新和中学校 |
| 6 | 私立 | 尚綱中学校 |
| 7 | | 熊本信愛女学院中学校 |
| 8 | | 真和中学校 |

＜熊本県＞ 応募校数：8校
応募作品：757編（※24年連続日本一）

＜全国＞ 応募校数：238校
応募作品：7,482編

第47回「全日本中学生水の作文コンクール」熊本県審査 学校賞・学校奨励賞 一覧

【学校賞】※応募率が70%以上

| | | |
|-------|-------------------------|-----------|
| 尚綱中学校 | 氷川町及び八代市中学校 組合立氷川中学校 | 嘉島町立嘉島中学校 |
|-------|-------------------------|-----------|

【学校奨励賞】※学校賞以外で応募率が50%以上

| | | |
|------------|-------|-----------|
| 熊本信愛女学院中学校 | 真和中学校 | 天草市立新和中学校 |
|------------|-------|-----------|

※応募率は、全校生徒数に対する応募生徒数の割合です。

熊本県の応募数は
24年連続日本一！

第48回コンクールも、たくさんの
応募をお待ちしています。

日々の生活の中で実感した水の
大切さ、水にまつわる経験、聞いた
話や学んだことをもとに「水」に
ついて考えてみましょう！！

熊本県審査

- 水の作文大賞 5編
(賞状及び副賞：図書カード)
- 熊本県賞 6編
(賞状及び副賞：図書カード)
- 入 選 37編
(賞状及び副賞：図書カード)
- 学 校 賞 3校
(賞状及び副賞：図書カード)
- 学 校 奨 励 賞 3校
(賞状及び副賞：図書カード)
- 参 加 賞 応募者全員
(オリジナル蛍光ペン)



水の国 くまもと

熊本県審査会

入賞作品

【水の作文大賞】

水が築く、命への処方箋

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 田川 あかり

私は将来、創薬研究者になろうと思っている。家族が難治性の病気で、「早く治してあげたい」と強く思ったことがきっかけだ。その思いから薬を創る仕事に興味を持ち、「創薬研究者」という職業を知った。そして、人の命を助ける薬を開発できる人になりたいと考えるようになった。

創薬研究とは、病気を治すための新しい薬を見つける仕事である。薬の材料には化学物質だけでなく、自然の中にある植物や微生物なども使われる。例えば、ペニシリンという抗生物質は、青カビの一種から偶然発見された。これは細菌による感染症にとっても効果があり、世界中で多くの人の命を救った。他にも、がんの治療に使われる薬が海の中の生物から見つかった例もある。自然の中には、まだ知られていない薬のヒントが数多く眠っているのだ。その自然を支えているのが「水」である。水は生命の源であり、多くの生物を育む場所でもある。川や湖、地下水の中には、微生物が多く生息しており、それらの中から新しい薬の素になる成分が見つかることもある。綺麗な水があることで、多様な生命が育ち、創薬の可能性も広がるのだ。また、水の流れが森や土壌を潤し、薬草や綺麗な空気を生み出す手助けをしている。

私が住んでいる熊本県は、「水の都」と呼ばれている。熊本では地下水が水道水としてそのまま使われていて、全国的にも非常に珍しいと聞いた。蛇口から出る水をそのまま飲める環境は当たり前のように思えるが、実はとても貴重で恵まれている。この豊かな水があるからこそ、熊本は自然は守られ、薬のヒントとなる生物も育っているのだと思う。

だから私は、普段の生活の中でも、水を無駄にしないように心がけている。例えば、我が家ではお風呂の残り水を洗濯に使うようにしている。最初は少し手間に感じたこともあったが、今では家族全員が水の大切さを意識するようになった。僅かな行動かもしれないが、小さな行動の積み重ねが、水を守ることに繋がると信じている。こうした日々の習慣は、

将来創薬に関わる研究を行う上でも、自然や環境を大切にすることを育ててくれていると思う。

創薬研究でも、水は重要な役割を果たしている。薬をつくる実験や製造の過程では、必ず綺麗な水が使われる。例えば、薬の成分を溶かす時や、器具を洗浄する時には「超純水」と呼ばれる、限りなく不純物の少ない水が使われる。この水が少しでも汚れていれば、薬の効果や安全性に影響が出たり、正確な実験が行えなかつたりする。薬を創るという行為は、実は水の存在に大きく支えられているのだ。つまり、薬を生み出す陰には、いつも水の力が働いているということだ。だから私は、水を守るということは、命を守る薬づくりにも繋がると強く感じている。

私は、ただ薬を創るだけでなく、水や自然の大切さを多くの人に伝えられるような研究者になりたいと思っている。自然を守ることが未来の医療に繋がることを信じ、自然を守ることが未来の医療を支えるということ、研究を通して実感し、その思いを発信していきたい。特に、水を守るといふ行動が、未来の病気を治すという行動に繋がっていることを知ってほしい。そのためにも、今できることを一つひとつ大切にしていきたい。夢を叶えるには時間がかかるかもしれないけれど、自然と水の恵みに感謝し、誰かの命を救う薬を生み出せる日を目指して、私の夢が、いつか誰かの未来を照らす光になると信じて、これからも夢を追いかけ続けたい。また、自然や環境についての知識も深めて、水と共に生きる道を大切にしていきたい。いつか私の創った薬が、世界のどこかで誰かの命を救うことができれば、嬉しい。私はこの夢を諦めず、これからも努力を続けていくつもりだ。

【水の作文大賞】

ここに水があれば

熊本県 真和中学校 三年 清永 卓樹

歩き疲れた。喉が乾いた。ここに水があればなあ。

僕が迷子になったのは、小学校に入ってからというものだった。友達と三人で歩いた田舎道。迷っているうちに日が暮れて、口数少なく早足で歩き回った。喉がひゅうひゅう鳴っていた。探され見つけられ、もらった水を飲んだら目頭が熱くなつた。安全な場所で水を飲む。それがどんなにありがたいことなのか、あの日僕は知った。

世界の水事情を知ったのもその頃だった。両親がタンザニアに住む男の子の支援をしていたため、活動報告の冊子をよく見ていたのだ。毎日歩いて水をくむ子ども。しかも水は安全でなく、病気や死を招くこともある。そこに時間と体力を奪われる子どもたちは学校にも通えず、貧困から抜け出せない。当たり前のように水を使っていた僕は、胸を痛めた。そして、支援金が子どもたちの学費と村の環境を整えることに使われると知り、お小遣いの一部を渡すことにした。その村に水道が整備されたのは、それから五年後のことだった。あの子が蛇口をひねったら透明な水が滴り落ちて、安心してゴクゴク飲むことができる。大げさでなく、それは命の水だと思った。

あれから数年。今も世界で四人に一人は安全な飲み水を使えないという。五人に二人は安全に管理されたトイレが使えない。僕はマズローの欲求五段階説を思い浮かべた。これは、人間の欲求を五つの階層に分けたもので、生理的欲求、安全欲求、社会的欲求、承認欲求、自己実現欲求と名づけられている。それがピラミッド状になっていて、下位の欲求が満たされた後、上位の欲求へ行くというものだ。水に関する欲求は少なくとも初め二つ。ここが保障されなければ、人となりが豊かな社会をつくり、やがて自己実現へ向かうということができない。水なしに、人は安心して生きられないのだ。

そしてこの問題は決して遠い世界の問題でもない。なぜなら今、日本

も水道危機に直面しているからだ。日本の水道普及率は現在、九十八%を超えている。でも高度経済成長長期に整備された施設が多く、老朽化が進んでいる。また、水道事業は職員数が少なく、しかも高齢化が進んでいる。近い将来、日本でも安全な水が手に入らなくなるかもしれない。怖くなり調べると、国が上下水道確保のため水道行政の機構改革を行ったこと、公共と民間が連携して水道関連の公共施設を管理・運用し始めていることがわかった。知らなかっただけで世の中は着実に動いていた。

僕はさらに自分の住む県について調べた。熊本では二年前、T S M C という半導体工場が建設されている。地下水を使うと知ってはいたものの、年間八百万トンという量に、枯渇するのではと不安になった。ただ、調べ進むとT S M C は水田に水を張り浸透させるかん養を行うとあった。大学と連携して経済活動と環境保全を両立させる研究も始めていた。県の取り組みを調べると、同様にかん養で地下水を増やしていた。熊本の水田は通常の何倍も水を浸透させられる恵まれた水田だ。地下水を使った以上にかん養を行い、水の巡りのバランスを保つ。それを意識することで持続可能なものにできると感心した。水を使いすぎない努力。それは企業だけでなく、一人一人がしていくことだ。自分の家で、学校や職場で、出かけた先で、いつもすべきことだ。

一昨年、アメリカで開催された国連水会議では、世界的な水危機への対策が話し合われた。やはり水問題は世界の問題であり、個人の問題だ。世界の二倍、アフリカの五倍水を使うという日本。ここに水があればなあ。そう願う未来が来ないように、そう願う国を助けられるように、まずは自分から節水を心がけ、世界や日本の水の状況について調べ、主体的に行動していきたい。

【水の作文大賞】

水の音が教えてくれたこと

熊本県 真和中学校 三年 小松 良太郎

昨年の夏、熊本県の球磨川で、家族と一緒にラフティングを体験した。その日の天気は快晴で、流れる水の量こそ少なかったものの川幅がとても広く、その雄大さは圧巻だった。

ボートに乗り込んだ直後、川の音が耳に飛び込んできた。ざあざあという水の流れ、岩にぶつかるバシャという音、パドルが水をかくときに立つチャプチャプという小さな音。それらすべてが重なり合って、まるで自然が奏でる交響曲のようだった。最初はその音に胸を躍らせていた。

しかし、しばらく下ると、空気が変わった。川岸に、豪雨災害で倒壊したまま放置された家屋が見えた。ガイドの方が教えてくれた。「あの家、まだ手がつけられていないんです。あの時、川に流されて行方不明になった方の遺骨が、今もこの川底のどこかに眠っているんです」。

その瞬間、耳に入っていた川の音が、まるで別のもののように聞こえた。さつきまで活気に満ちていた音が、急に重く、不気味に感じられた。自然はこんなにも美しく、そして残酷なのか。僕はただ川に揺られながら、その小さな「叫び」を聞いているしかなかった。人間の小ささ、無力さ、不甲斐なさが体の奥にしみじみと染み込んできて、震えが止まらなかつた。

それでも川は、黙って流れ続ける。どんなに人が流いても、悔んでも、その音を止めることはない。ただただ、過去を飲み込み、未来へと進んでゆく。その冷たさが、逆に自然の偉大さと、そこに対する畏敬の念を僕に与えてくれた。

旅の帰り道、僕たちは近くの山に登った。頂上で飲んだ一杯の水の味は、今もはっきりと覚えている。汗をかいた体に染みわたるような冷たさ、のどを潤す感覚。そのとき耳に入ってきたのは、風が木々を揺らす音、小鳥のさえずり、そして遠くかすかに流れる沢の音だった。

その音と水の匂いが一体となって、感動の記憶として深く僕の中に刻まれている。水は人の命を奪うこともあれば、生かすこともある。山登りのあとに飲んだその一杯が、こんなにも心に残っているのは、水が与えてくれる恩恵を、僕は球磨川の体験を通して知ったからだと思う。

自然の音は、目に見えない感情や記憶を呼び起こす。球磨川の激しい流れの音、静かに眠る川底への想像、そして山頂で飲んだ水のやさしい音。それらはすべて、僕に水の恐ろしさと美しさ、大切さを教えてくれた。

これからも僕は、水の音に耳をすませて生きていきたい。そこには、自然と共に生きる僕たち人間の姿勢が、確かに映っているのだから。

【水の作文大賞】

水が織りなす命の舞台

熊本県 真和中学校 三年 松岡 可恩

私は、長期休みになると菊池市にある菊池溪谷によく行く。私は川辺に立つと、いつも耳を澄ませてしまう。流れる水の音、鳥のさえずり、そして風にそよぐ木々の音。

それはまるで自然が奏でる交響曲のようだ。この世に生を受けた私たちにとつて、水という存在は何か特別なものだ。

それは単なる液体ではなく、生命そのもの。人間を含めたすべての生き物の命を支えている、まるで地球の血液のようなものだ。

私たちは、水とともにある生活に慣れすぎてその価値を見失ってしまっただけではないだろうかと思う。

蛇口をひねれば水がでる便利さに、私は感謝の気持ちを忘れてしまいがちだ。

しかし、地球上のすべての人達が同じように水に恵まれているわけではないことを考えると、その便利さがどれだけ貴重であるかに気づかされる。

例えば、アフリカやアジアの一部の地域では飲み水を得るために何キロも歩かなければならない子どもたちがいると聞く。

水を運ぶための時間は、子どもたちが教育を受けたり遊んだりする時間を奪ってしまう。その現実には、私は胸を締め付けられる思いだ。一方で、

私たちの日常では、水が当たり前のようである生活を送っている。この大きな格差を前にして、私たちは何ができるのだろうか。

答えは、小さな行動の積み重ねだ。

節水を心がけること、雨水をためて活用すること、そして水を無駄にしない意識を持つことだ。

一見すると些細なことに見えるかもしれないが、それが集まることで大きな変化を生む。

さらには、学校での環境教育や地域の清掃活動に参加することで、水を

守る輪が広がるのではないかと考える。

また、水は自然環境だけではなく、文化や歴史とも深く結びついている。日本では古くから、川や湖、海をテーマにした物語や祭りがあり、それらは水との共生を教えてくれる。

例えば、熊本県では清らかな水があつて初めて成り立つものがある。これから未来を思うとき、私は「水を守る」という意識を持つことが私たちの責任だと感じる。

水は過去から未来へとつながる命のリレー。そのバトンをしっかりと次世代に渡すために今できることを一つずつ積み重ねて行きたい。

最後に、私がいつも思うことを共有したい。それは、水はただ流れるだけの存在ではないということ。

その背後には、自然の力や人々の努力が詰まっている。

水を見るたびに、私たちの命を支えているその力に感謝し、行動を起こす勇氣を持つとう。

それこそが、水が奏でる交響曲の一員となる第一歩ではないだろうか。

【水の作文大賞】

熊本の水

私たちが住んでいる熊本は「水の国」と呼ばれ、地下水が豊富にある。「水の惑星」と呼ばれている地球で、いつでも美味しい水が飲めるという事は、熊本県民としての誇りの一つだと思っている。

私が特に水のありがたみを知った出来事がある。それは、去年の年末のことだった。家の水道が壊れたのだ。わたしは熊本地震のときの記憶が鮮明ではなく、すぐに祖父の家に行ったようで、水に困る、という経験をあまりしたことがなかった。実際に、水が出ない生活というのは苦しかった。料理はや洗い物、年末の大掃除など自分たちが当たり前をやっていたことができなくなってしまった。そして、水が使える生活を送れることが当たり前になってしまっていることが少し怖く感じてしまった。これが、私が水の大切さを実感した出来事だ。

中学一年生の三学期、環境出前講座という授業があった。熊本の水、川、地下水などたくさんのお話を聞き、たくさんを知ることができた。その中でも私は、熊本に住む生物のことが印象に残っている。熊本は水が豊かであると同時に、水生生物もたくさん存在する。その中で、熊本の絶滅危惧種の数は約四十九種もいる。私は、このことにとっても驚いた。熊本は、水だけでなく、豊かな生物もたくさん生息していることを今まで知らなかった。そして、あることを思った。人間の水の使い方は、私たち人間だけでなく、海や川などに住んでいる生物にも影響するのではないか。そう思うと、そこに住んでいる生物たちに申し訳ない気持ちでいっぱいになった。日常生活の水の使い方など、水について見直したいと思うきっかけになった。

これらの出来事から、私は日常生活について見直した。どこかで無駄遣いをしていないか、もつと節約できることがあるのではないか。実際に見直してみると、いくつかが改善できそうなどころを見つけた。一つ目は、歯磨きをするときの水の無駄遣いだ。歯を磨いているときに、つい

熊本県 真和中学校 二年 島津 優凜花

水を出しっぱなしにしているときがあった。そして、うがいのときにも、水を流したままにしているときがあった。だから、使い終わったら、すぐに水を止め、コップを使用するようになった。二つ目は、お風呂でシャワーを流しっぱなしにしていることだ。特に冬は寒くて、ついシャワーを流したままにしている。しかし、水の大切さを深く理解したあとには、やはり無駄遣いだと思い、きちんとシャワーを止めるようにしている。三つ目は、食器を洗うときのことだ。特に油がついたフライパンなどを落とすのに大量の水を使ってしまう。そこで、環境出前講座で知ったことを実践しようと思った。それは紙で油をふき取ってから洗うという方法だ。少しふき取るだけでも洗うのが楽になり、水の使用量も大きく減った。

熊本には、水が豊富にある。でも、だからと言って、水を無駄遣いしているわけではない。むしろ逆だ。水を大切にし、そこに住んでいる生物たちも守っていかねければならない。そして、この恵まれた熊本の水を未来に引き継いでいくために、私たちは、できることを具体的に見つけ、行動することが大切だ。これからは、水を守るために行動していきたい。「熊本の水は、私たちの誇り」そう胸を張って言い続けられるように。

【熊本県賞】

私たちが知らない水

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 上田 華蓮

水は生きるためになくはないものだと思う。

私は、水は世界中のどこにでもあり、蛇口をひねるとすぐ出てきてそのまま飲めるし、いくらでも使えると思ってた。だから、節水のことをよく知らずに、水を使っていた。でも、実際はそうではなかった。日本では簡単に水が飲めたり、使えたりするが、世界を見ても水不足に苦しめられている国がたくさんあった。それに、世界の六億六三〇〇万人の人が水に苦しめられているそうだ。その代表的な人物がエチオピア・十三歳の少女「アイシャ」だ。アイシャが水汲みに費やす時間は毎日八時間で、朝早くから夕方近くまで、炎天下の砂漠を一日中歩いて家族のために水を汲んでいる。それでも手に入る水は、一人当たりわずか五リットル未満の茶色い水だけ。世界中の女の子や女性たちが水汲みに費やす一日当たりの時間の総計は二億時間にも及ぶそうだ。これを知り私はもつと世界の水問題について調べてみようと思った。

ユニセフの資料などで調べてみると、きれいな水を使えない、水自体がない、水紛争などの問題があった。きれいな水を使えずに、毎日、八百人の子どもが命を落としていることもわかった。水紛争のことが気になり、もつと詳しく調べてみた。すると、現在人口増加と地球温暖化により水不足状態は更に悪化して、紛争の原因となることが多くなっている。原因としては家族や村レベルで井戸の水を巡る対立、汚染や不足分な水道の配備から発生する水不足に対するデモ、さらに国同士で川・ダムなどの水資源の使用権をめぐるものが含まれている。水争いにより暴力に発展したり、殺人事件も起きています。このようなたたくさんの原因により命に関わる問題が起きていたということが新たにわかった。だけれど、世界の水問題がいろいろわかったからといって、私たちは「世界には水がなくて大変だ」と思うだけで、わかった気になっていないだろうか。

私は、自分もわかった気になっていると思いき、実際に水を使えない苦しみを体験して感じてみようと思った。私が、実際に実践したことは、一日に使う量の制限は五リットルまでという土台を決め、一日に飲む水の量を一リットルにし、お風呂に入る時はお風呂にためた水しか使えない、歯磨きのときも水はうがい一口分しか水をつかえない、という条件で実験を行った。最初は全然いけると思っていた。でも、喉が渴いて一リットルではたりなかった。お風呂では、おけなどを使って頭を洗ったり体を洗ったりして、とても時間がかかり腕が痛くなった。でも、歯磨きは全然大丈夫だった。なので、これからはこれを毎回行っていきたいと思った。でも、まだまだ水を使う量が多いと感じた。そのため、節水をしていきたいと思いき、自分が出来る節水について調べてみた。すると、お風呂のときにシャワーの水を流したままにしない、お風呂に溜めたお湯は捨てずに使用する、トイレの洗浄レバーは大・小を使い分ける、歯磨きのときに水を出したままにしない、洗濯はまとめ洗いを心がける、米を洗うときにつかかった水は樹木などに利用する、などの節水の方法がみつかった。わたしは、お風呂や歯磨きのときの水の出しっぱなしをやめて、洗濯や米の水の使用などを母に提案してみようと思った。

日本はきれいな水をすぐ使える。少しでも水が濁っていると口にしようとしれない。でも、他の国ではどうだろう。他の国では毎日のように水不足や水紛争に苦しめられている。私たちはそれを聞き、世界の辛さがわかった気になっていないだろうか。また、最近では日本でも水質汚染が問題になっている。なので、私たちは節水を心がけ、日本のためにも世界のためにも水を守っていかねばいけないと思う。

【熊本県賞】

自然のつながり 熊本県 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 二年 松永 幸也

先日、祖母が真剣な表情でテレビを観ていた。ぼくが、「どうしたの？」とたずねると

「山火事のニュースを観ていた。と教えてくれた。」

テレビに目を向けると山の木々が炎をあげて燃えていた。白いけむりも立ちのぼり風向きによっては、灰も人の住む街にとんでいつている様子が写し出されていた。ぼくは単純に「水をかければ消えるのに」と、その時は感じた。

ニュースに関心を寄せ毎日、家族とニュースを見るうちにその地域ではしばらく雨がふっていないこと。大気が乾燥していることを知った。また、風もあり空からの消火が難航していることも分かった。あの時早く雨が降っていれば、もつと早く鎮火したかもしれないと思った。

今回の山火事のニュースを見るたび自然環境に影響はないのか？特に飲み水や水害の影響は無いのだろうか？と考えるようになった。僕は、森林の木々が失われることで木や地面は水をたくわえることができず土しや災害などのリスクが高まるのではないかと考えました。くわしく調べてみると、やはり大きな影響が長期的にあることが分かった。その中でも僕が最も注目したことは「水質への影響」のことだ。山火事が発生すると、燃焼した植物や土壌から有害物質や栄養塩が浸出し、河川や湖沼の水質が悪化することがあり、これにより、魚やその他の水生生物に悪影響を及ぼす可能性がある。次に「水源の減少」のことで、山火事によって森林が焼失すると、土壌の浸透能力が低下します。これにより、雨水地面に浸透しにくくなり、地下水源が減少することがあるということ。他にも様々な影響があることを知った。

水は生きていく上で毎日口にする欠かせない物でもあります、その

水に影響が出て安全に口にできない日々がくるとするならば僕達ほどのようにして生活していかなければならないのか、今の僕には想像もつきません。しかしそのまま知らずに過ごすわけにはいきません。まず、水にかんする知識をえることで自分のしている行動が環境に優しい、ことなのかを判断すること。日常生活の中で水を無駄にしないように心がける。シャワーの時間を短縮したり、洗濯機を満杯にしてから使用したりする「節水」を心がけたり、雨水を集めて庭の水やりや掃除に使うことで、地下水や水道水の使用を減らすなどの雨水の利用。今あげた以外のことでも水質の保護や再利用など水を有効活用する方法はまだたくさんあります。これを本当の意味で理解し、実さいに行動をしてみたり、まわりの人に広めていったりして、皆で水をまもっていけるように自分なりにかんがえてつとめていきたいです。

火災が終わったというニュースを見ていた時僕はとつさに

「おばあちゃん」

と言った。おばあちゃんは

「どうしたの？」

ときいてきたので自分自身も、なぜおばあちゃんをよんだのかわからない、でもこうこたえた。

「自然はやっばり守っていかんとね、おれ調べたけど火災も水質とかにつながるとるって、」

そうするとおばあちゃんは

「よくそぎゃん調べたね。一つしよに自然を守っていきこ。」

と言ってくれた。たぶん、あの自然にでた言動は火災や水に対する情熱的な気持ちからきたものだと思う。これからは水、自然を守るためには、日々の行動を意識していくと心にちかった。

【熊本県賞】

水の恵み エコな地球を作る

熊本県 天草市立新和中学校 三年 平道 圭樹

これは僕が小学校低学年の頃の話だ。そのときはちょうど夏休みだったので、家族で熊本県にある祖父の家へ行っていた。当時、祖父は養豚場を経営しており、それがどのようなものなのか気になった僕は見学をさせてもらうことにした。

豚に餌をあげるところや、子豚が生まれる瞬間など、普段は見ることができないようなことも見ることもできた。一通り作業の説明が終わったあとには、施設の紹介をもらった。豚舎の中やその事務所の中を見学した後、次に見たのは排水処理場だった。いくつかの排水槽が並んでいて、その中には濁った水が貯まっていた。祖父曰く、この水は豚を飼育する際に出た水だと言う。僕は、こんなに大量の水をどこへ運んでいるのか気になって聞いた。すると祖父は、

「この水はきれいにして近くの川に流しているんだ。」

と答えた。僕は目の前の汚水が綺麗な水になるイメージがつかず、続けてこう聞いた。「こんな汚い水を川に流して大丈夫なの？」祖父は言った。「川の水と変わらないくらい綺麗な水になるから大丈夫だよ。」

と。信じられないものの、排水施設の奥へ進むとその話は本当なのだと分かった。目の前には茶色に濁った汚い水などなく、透き通った綺麗な水がそこにはあったのだ。そしてそこから流れる水は、流されるとすぐに川の水と馴染み、もうわからなくなるほど自然の水と大差なかった。

この体験から約一年後。僕は小学校の授業で浄水場の仕組みについて学習した。教科書の資料や動画を見ながら学習し、水への理解を深めた。

先生からも

「水を大切にしなければならぬ」

と言われ、「おじいちゃんを取り組みも水を大切に活動の一つなんだな。」と思った。だが、ここで一つの疑問が生じた。「水はなぜ再利用され続けているのだろうか」ということだ。水を大切にしないといけない

ということとはわかる。しかし、地球にはまだ沢山の水があるのにも関わらず、できるだけ少ない水でやり繰りすることに意味はあるのだろうか、気になりはしたものの、この時の僕はあまり深く考えず、調べなかった。だからこそ中学生になった今、水が環境に与える影響について改めて調べてみることにした。調べて行くにつれ、水が地球の中で循環していることが分かった。それを人類は使っているのだからこそ無駄に使うことなく大切に使用しなければならないことを改めて感じた。祖父が水を大切にしていることを誇りに思った。

【熊本県賞】

君の「水」は誰のため

熊本県 真和中学校 三年 木下 航

水に関して、熊本県のホームページを覗くと「くまもとの水検定」をみつけた。好奇心で試しに解いてみた。

「熊本の水ってそんなに美味しいの？」

「熊本の水の名所ってどこ？」

「地下水は大丈夫？」

小学生の頃に社会や理科の授業、総合の時間で学習したはずなのに、知らないことばかり。たくさんの学びがあった。

印象に残ったのが、阿蘇山という自然からの恩恵と、加藤清正の大規模な水田開発だ。熊本市が湧水時でも断水の経験がないのは地下水を中心とした水循環の仕組みがあるという。四百年前の先人の努力による恩恵に改めて驚きと感謝を感じた。十四年間熊本で過ごすなかで、いかに普段から無関心で水を使っていたか、水を「あたりまえ」と捉えていたかを気づかされた。

最近読んだ中で、心に響いた言葉がある。

「この鉛筆を作る人は世界に一人もいない」

これは経済学者フリードマンという人の有名なスピーチだ。普通のどこにもある誰でも買えそうな鉛筆だが、使われている木材はワシントン州で伐採された木からできている。その木を切り倒すノコギリには鋼が必要で、その鋼を作るには鉄鉱石が必要だという。真ん中の黒い芯は圧縮グラファイトでできていて――。他にも頭の部分についている小さな消しゴムや接続部分の金属は、塗料やそれを定着させる薬剤など、何千人もの人々がその鉛筆を作ったと彼は説明する。

愕然とした。そんな大きな考えが、自分には全くなかった。

「水も同じだな」と思った。

自分たちが飲んでいる水道水は浄水場から作られている。浄水場まで流れる地下水を溜める水田がある。そして水田にたまる雨や雪を自然が

作っている。水質管理をする人々の思い。安心、安全が当たり前とされている責任感。

「水は一人で作れない。」

そう思うと普段から何気に使う水の価値観が変わった。今日の激しい雨も、大きく考えると恵みの雨となり、大地を潤し、自分たちの生活に欠かせない水となる。水への想いは深くなってきた。

熊本の水は「蛇口をひねればミネラルウォーター」と羨ましがられるほどで、世界に熊本の良好な生活環境をアピールできる宝物なのだ。熊本ではTSMCが稼働し、すでに住民たちの水問題への不安は増す一方だ。地球温暖化での気候の変化、梅雨時期によく聞くようになった「経験したことのないレベル」の洪水。

自分たちの未来が危うくなってきたら漠然とした不安は、自分たちが意識をして、行動をおこし、それを僅かな力でも継続することで解決できるかもしれない。

行政などの他人任せではなく、自分たちの未来にどうつながられるか――。

熊本の水を誇りに思い、自慢できるだろうか。水を敵に回すも味方に回すも自分たちの意識次第。「自業自得」とならぬよう、努めたい。

【熊本県賞】

水と共に生きる日々

熊本県 真和中学校 三年 田畑 心那

昨年の元旦、石川県能登半島で最大震度七の揺れを観測する大地震が発生した。新年の明るい雰囲気から一転、突然切り替わったテレビに映しだされた緊迫した状況に、「これは現実なのか？」と自分の目を疑ったことを今でも覚えていいる。連日のように報道される津波や土砂崩れ、建物の倒壊などの痛ましい被害。日本三大朝市の一つとされる「輪島朝市」も火災の被害を受け、死者は五百名を超えた。そして、復興への道を歩みだした矢先に奥能登豪雨が発生した。冠水や土砂崩れで多くの人が打撃を受けた。そんな信じがたい状況を目にする中、私は書道を共に頑張る石川の学生達のが気が気でなかった。その一人に志賀町に住む中学生がいる。彼女が住んでいる志賀町は震度七の大きな揺れに見舞われた被害の大きな地域だ。その揺れは元旦書き初めの稽古をしていた彼女を襲った。幸い命は助かったものの断水が続いた。先が見えない不安な日々……私だったらくじけてしまうだろう。しかし、彼女は地震から八日経つと書道の練習を再開したのだ。断水で水が使えなかったので、雨水や雪解け水を使って水書き書道の稽古をしたそうだ。私は震災に負けない彼女の姿に感銘を受けた。

水は、地震による津波や九月の豪雨など石川やその周辺の人々に災いをもたらした。その一方で、自然の水の恵みにより、彼女は困難な状況の中でも大好きな書道が続けることができた。炊き出しで救われた人は何人いるだろうか？きつと教えきれないほどいるだろう。水があったからこそ救えた命だ。

ふり返ってみれば、どんな苦しい時でも、水は私達の生活と共にあった。私は今、熊本という水に恵まれた地で暮らしている。蛇口をひねれば、当たり前のように水が出てくる日々が目の前にある。しかし、本当にその生活は限りなく続いていくのだろうか？

今、住宅や市街地の広がりなど様々な理由で熊本の地下水量は減少し

ている。このままでは「水の都くまもと」が危ない。私達にできること、それは一人一人が自分事として水問題について考えることだと思う。水は私達の生活に必要不可欠であり、それを守っていくのは私達の使命だろう。使わない時は水を止める、レストランで出された水は最後まで飲む、自分出来る小さなことを探し、実践することで、大きな結果につながるはずだ。

私は能登で起きた災害から水について考え直すことができた。水が引き起こした災害に負けなかった学生が書で表した「能登」の字にはとてもたくましく、輝いていた。私もその字に込められた思いを忘れず、力強く、水と共に日々を歩みたい。

【熊本県賞】

「あたりまえの水？」

熊本県 真和中学校 二年 頼藤 維生

最近、能登半島に関するニュースを見た。地震発生から1年3か月が経ち、ついに石川県内の避難者がゼロになったという報道があった。ただし、別のニュースでは、被害の爪痕が今も色濃く残っている現状が伝えられていた。壊れた建物がそのまま放置されていたり、水道がいまだに復旧していない地域があったりする。また、被災地では人口が減少しているという深刻な問題も報じられていた。このようなニュースを目にし、水の問題について改めて気になったため、少し調べてみることにした。ちょうど、父が地震の発生直後に能登でボランティア活動をしていることを思い出し、そのときの話を聞くことができた。

能登半島地震は2024年1月1日に発生した。父はすぐに避難所の手伝いのため、金沢経由で能登に向かったが、道中の道路は崩れたり寸断されていたりして、現地に辿り着くまでもに苦労があったという。特に途中でトイレに行こうとしても、水がないためにトイレの衛生状態が保たれておらず、本当に大変だったということだった。

避難所では、飲み水や顔を洗う水もすべてペットボトルに頼るしかなかった。食事には水が使えず、調理もままならず、避難所の食事はレトルトや配給の弁当などが中心だったようだ。また、トイレの後に手を洗う水もなかったため、手指の消毒はアルコールに頼っていたそうだ。特に印象的だったのは、「トイレを流す水がない」ということ。そのためトイレを清潔に保つのが難しく、避難所の衛生環境は非常に悪化していたようだ。トイレは、便器の上にビニールをかぶせ、その上に凝固剤を入れた袋を敷いて用を足していたという。消毒の手段が限られていたこと、トイレの衛生状態の悪さなどが重なり、新型コロナウイルスやインフルエンザ、感染性胃腸炎などの感染症が広がっていたという。さらに、水分や栄養の不足により、便秘など体調不良を訴える人も少なくなかったようだ。父はそのような過酷な状況を経験したあと、自宅に戻って「ト

イレの水が流れることのありがたさ」を強く実感したと話していた。

この話を聞いた後、ニュースを改めて見返してみると、水道の復旧がまだ進んでいない地域があるという事実にも、より深く心をうごかされた。僕は朝起きて、どれだけ水と接しただろう。ふと考えてみた。顔を洗うのも、歯磨きするのも水を使った。朝ごはんを食べた味噌汁も水を使って作られているし、トイレも水使を使って流した。さっき着替えた洋服も水で洗ってもらったものだ。この後、夜になって入るお風呂も水を使う。あまり考えることなく水を使っているけれど、改めて考えると水は僕たちの生活にとっても身近にあり、必需品だが、当たり前のものでもないかもしれない。

能登の地震のことを調べてみて、水を使えることに感謝すると同時に、日頃の蓄え、そしていざ水を使えないときの備えをしておかないといけないと思った。水の大事さを再認識した春休みだった。

【入選】

恩を恩で返す

熊本県 熊本県立玉名高等学校附属中学校 二年 石炭 愛也奈

私は蛍が大好きだ。暗闇の中で輝く生き物の美しさを感じられるからだ。

私は小さい頃、蛍が光る生暖かい時期によく川に行っていた。初めて見た蛍が輝いている景色は今でも忘れられない。毎年、その景色を見るために川へ足を運んでいた。

しかし、熊本地震があり、その年は蛍が輝いている所を見られなかった。地震があつた年はバタバタしていたけど、その翌年は落ち着いてきていたので蛍を見に行った。地震があつたせいかわ、激的に蛍が減っていた。地震はどうしようもないことは分かっているけど、とても悲しかった。小さい頃の私は何をすれば良いか分からなかった。ただ蛍がいなくなった川を見つめることしかできなかった。毎年行っていたはずの川にはだんだん行かなくなっていった。m数年後、私は引越した。だから尚更その川へは行かなくなった。

ある日ふと家族が

「蛍、久しぶりに見に行こう。」

と言った。正直、まだ蛍がないあの時の状況だと思っていたのであまり乗り気ではなかった。

しかし川へ行くと、蛍の数が増えていた。地震でいろんなところが壊れたりしていたから、もう蛍も戻ってこないだろうかと、勝手に決めていた方などいろんな人が壊れた自然を回復させるために努力していたのではと思った。私にできたことがあつたのではと悔しくなった。

今は地震ではなく自分たちの生活排水、道路の開拓などで自然を破壊している。自然はなくてはならない存在なのに、自ら壊しているのが悲しい。水は生きていく上で不可欠な存在だし、植物も二酸化炭素を吸収して、酸素をつくってもらわないといけないから、なくてはならない存

在だ。

しかし私たちは今、この瞬間も、昨日も、明日も、明々後日も自然をどこかで壊している。恩を仇で返すようなことを毎日やっている。みんな壊したくて壊しているのではないし、突然自然を壊すなど言っても咄嗟にできるようなものではないと思う。私は、

「自然を守るために日々意識してますか。」

と聞かれたらできていると自信をもっては言えない。そんな人は多いと思う。環境に優しいものは他のものに比べて多少高いと思う。だからついつい環境に優しいものはさけてかかってしまう。

でも値段が他と同じ、または他に比べて安いものだとみんなそれを買うと思う。それがとても難しいことは分かる。できるものならもうやっていると思う。けれど状況は違うけど地震の時のボランティア活動のように、私たちも何か自発的にやったら何か変わるのではと思う。

積極的に、ボランティア活動に参加するのが大切だと思う。参加して、自然災害なども受けるけど、それ以上に恩恵をもらっていると思うから、恩を仇で返すのではなく、恩を恩で返していくべきだと思う。それによって水質汚染、気体汚染などの阻止の手助けになるのではと思う。

私は蛍が大好きだ。綺麗な水じゃないと、蛍は見れない。だから蛍を守るため、綺麗な水を保つためにボランティア活動に参加してみようと思う。

【入選】

「熊本の地下水」

熊本県 熊本県立玉名高等学校附属中学校 二年 内田 雄大

熊本県は、地下水が豊富です。そのため、最近では、TSMCという台湾の企業が熊本県に工場を建設しました。ぼくたち、消費者、労働者の目線からは、街の活性化がされたり、新たな働き口が増えたりして、良いことばかりですが、地元企業の経営者目線からだと良いことばかりではないそうです。まず、地下水の減少が挙げられます。TSMCは、半導体の企業であるため、水資源をたくさん使います。熊本の地下水は、高純度で、とても透き通っているとされています。だから、その地下水を枯渇させると、インドや中国で起きている砂漠化、また、熊本は、水道水源のすべてを地下水でまかなっているため、枯渇すると、トイレの水が川の流水になってしまうかもしれません。

次に、水質汚染です。TSMCが、もし、工場排水を流してしまうと、それが、地下水にまで影響を受け、水をも川の流水を消滅したものになる可能性があります。TSMCが来たことでのデメリットは、地下水の減少と水質汚染でした。逆に、TSMCが来たことでの水へのメリットもありです。菊陽町や大津町は、阿蘇の火砕流で地面ができていたため、水を5〜10倍通しやすく、地下にぐんぐん水が染み込みやすく、地下水を育む役割があるそうです。しかし、これだけだと、TSMCは1日にプール30杯分の水を使うため、水の量が減っていく一方だと思いませんか。私も、最初は、とても不安でしたが、調べて見ると、熊本の地下水は琵琶湖の3・2倍であり、需要と供給をバランスよくしているそうです。だから枯渇する心配はありません。デメリットがメリットに変わりました。

私は、小学生の時、田植えをしたことがあります。長くつをはき、稲を田に植えていくのが誰のためになるかは知らないですが、なんとなくうれしかったです。これがお米になってみんなの目の前に運ばれます。ということをお米から聞き、農家もいいなと思った瞬間でした。農家は、

ヒーローです。遠目からみんな腹いっぱいにして、健康にさせているからです。その原点の、水は、世界全体の生命の源だと実感します。だって、当たり前だけど、水がなければみんな生きられません。そして、水は、いろいろな姿へと変化します。水は生きるための命綱になったり、大雨となり、地下水に蓄えられたり、はたまた、津波になったり、水は生物が生きるすみかになります。TSMCの半導体も熊本の高純度の地下水があるからこそ、成り立っています。

このように、私たちは、今、蛇口をひとひねりするだけで水が出てくる世界になり、お金があれば、水が買える世界にもなっています。しかし、水は、過去に生きていた先人の人々が残した財産です。田植えという体験により、水へのありがたみが分かりました。今、食べているものも、飲んでいるものも全て、元々は、水にたどり着くことを忘れないようにしていきたいです。この熊本は、火の国でもあり、水の国でもあります。だからこそ、熊本の水を次世代まで守り、農家や大人の人々に感謝を伝えたいと思っています。

【入選】

大切にしたい熊本の水

熊本県 熊本県立玉名高等学校附属中学校 二年

田上 ゆり子

私は、小学生4年生の時に、夏休みの自由研究で、いろいろな水について調べたことがあります。近所の田んぼの水と、近所の境川の水、そして水道水では、顕微鏡で見た時にどのように違うのか、興味を持ったからです。

予想としては、田んぼの水と川の水には、微生物や、ゴミなどが見えるのではないかと思っていました。しかし、顕微鏡で見ると、田んぼの水が少し黄色っぽい感じはした以外は、近所の境川の水も、水道水もあまり変わらず、きれいに見えました。

顕微鏡で見る以外に、蒸発させてみたり、薬品を使って調べたりすると違いがあったのかもしれないですが、当時の自分では思いつかず、近所の川の水もきれいだな、と思いました。そして、熊本には豊富な地下水があり、綺麗な水が湧き出る水源がいくつもあることを思い出しました。

そこで新たに興味を持ったのが、一番綺麗な水はどんな水なのか、ということでした。家族に、その疑問を伝えてみると、父から白川水源の水が有名だと紹介されたので、家族で行ってみることにしました。

行ってみると、森の中だからか、水源の近くは涼しかったです。岩肌から出てくるようなイメージだったけど、おもったより湧き出る量が多かったです。池の下からどんどん出てくる様子を見て、結構たくさん水が湧き出ていることがわかりました。手を入れてみると、冷たかったです。また、水源の水を持って帰ることもできたので小さいペットボトルに入れて持って帰りました。

家に帰って白川水源のことを詳しく調べると、白川水源は南阿蘇の中央を流れる清流白川の総水源で、湧水量はおよそ60トン。一九八五年（昭和60年）に環境省の日本名水百選にも水を選定されていました。

こんな綺麗な水がどうやってできたのか気になったのでわき水のでき方も調べて見ると一連の流れを示す絵が出てきました。まず、水源林や山

に雨が降ります。その後長い年月をかけて水が流れ、湖やダムに流れ着きます。これが湧水のでき方になります。水道水などはその後、浄水場や配水池、配水管を通り、家庭に届きます。使い終わった水は、浄化センターを通して川から海に流します。そして海の水が蒸発して、雲になり、また雨が降ります。それが循環していきます。

あるドラマで、水の絶対量はこの仕組みでずっと同じ水が行ったり来たりを繰り返しているため、増えることも減ることもないという話を聞いていました。それを聞いて、結構不安になりました。それなら水をずっと使い続けるとどんどん減っていく、海や川、白川水源のような自然の湧水も枯れていくのかもしれない。

水は生きていくために欠かせない大切な資源です。それは人間を含めた地球上のほとんどの生き物に共通することです。そしてこの資源を大切にしていくなために水について考えてみませんか。

【入選】

使い方は無限だが水資源は有限

熊本県 熊本県立玉名高等学校附属中学校 二年 松永 真之介

「シヤア……」

この音を聞いて僕が何をしているのか想像がつく人は何人いるのでしょうか。ちなみにこの音は僕がジョウロで豆苗に水をあげているときの音です。このように、音だけでは想像できないだけで、水の使われ方は無限にあると思います。

僕が中学一年生の時の夏休みに学校では、「豆苗を育てて、観察する」という課題が出ていました。僕はあまり植物を育てた事がないため、「自分でできるかな……」と少し不安がありました。しかし、同時に「あまり育てたことがないからこそ、しっかりと育ててみよう」という思いもあったので毎日毎日、水をあげました。日に日に伸びていく豆苗を見て、僕はとても嬉しくなりました。

しかし、「植物を育てる」ということにおいて、やはり、失敗もありました。その失敗した日、僕はいつも通り水栓柱で水をくみ、ジョウロで水やりをしました。そして、水やりを終えてジョウロを水栓柱のそばに置き、家の中に戻って、出かけました。僕は次の日豆苗に水をあげようと思い、水をくみに行きました。すると、

「シヨボシヨボ……」

水が流れたままになっていました。勢いはそれほど強くはなかったものの、一日流れ続けていたのかと考えると、「たくさんの水を無駄にしてみましたな……」とひどく後悔しました。しかし、「水を無駄にしてみました分、気合いを入れて豆苗を育てよう」と思いました。

豆苗もとても育て、二〇センチメートルくらいまで生長しました。僕は失敗も含めて、植物を育てることの楽しさや責任をこの「豆苗を育てて、観察する」という課題から学ぶことができました。しかし、大前

提に水がないと植物を育てることの楽しさや責任にも気付けなかったと思います。

さて、そんな植物を育てることの楽しさや責任を気付かせてくれたと言っても過言ではない「水」に関して僕に住む熊本県では変革期を迎えています。なぜなら、台湾の半導体工場が菊陽町に出来たからです。そこで懸念点と挙げられるのが「地下水の枯渇」です。半導体を作るには製造の工程により、「超純水」の水が大量に必要となってきました。そこで、熊本県の地下水が使用されることになったのです。それは、第一工場・第二工場合計で約八〇〇万トンになります。この量は熊本地域で一年間に使用された地下水の約五パーセントになります。

この懸念点を解決するために、熊本県は様々なことに取り組んでいます。例えば、水の再利用です。熊本県は水の処理を細分化して、七十五パーセントリサイクルして「水一滴を四回使用する」というのを方針としています。このように、熊本県は企業の利点だけではなく、地下水の保全もしっかり考えて、取り組んでいます。

僕は、水は「植物を育てる」のような小さな事から「半導体生産」のような大きな事など様々なところで使われているように感じます。しかし、「使い方は無限だが水資源は有限」です。そして、熊本県は水の国と呼ばれる「昭和の名水百選」や「平成の名水百選」に選ばれている川があるなど、水に関することはとても有名です。だからこそ、節水や再利用などを先頭に立って行っていかねばならないのではないかと思います。ぼくは、「豆苗を育てる時に失敗した、水の流しっぱなしをしないようにするなど小さな事から心がけていきます。また、これらのことを家族や友人にも呼びかけていきます。」

【入選】

雨の魔法

熊本県 熊本県立玉名高等学校附属中学校 二年 宮本 早彩

「ぼつぼつ」と雨が降った朝、私は「雨かぁ」と思いながら傘を差して学校に向かう。

「ああ、くつ下ぬれてしまったよ」

と友達と雨に向かってため息をついた。私は雨が好きではない。雨の日はまだか暗い気持ちになるからだ。小説やドラマでも登場人物の悲しんでいる時の情景は雨で表現されることが多い。「雨なんて降らなければいいのに」と私は思った。

ある年の夏、暑さで庭の植物が枯れてしまった。水をあげたかったけれど、雨が降らなかったことで家のタンクは空っぽだった。私は、普段雨が降ることのありがたさを知った。

私が小学四年生に頃、学校の行事で近所の浄水所で飲んだ水は消毒されたばかりでもおいしかったことを今でも覚えている。浄水場で働く人は、「この水はね、川やダムに降った雨をきれいにしてみんなが飲める水になっているんだよ」と説明されていた。それを思い出した私は、雨は生きていくうえで欠かせないものなんだと確信した。

私は、少しずつ雨が好きになっていくかもしれない。前は嫌だと感じていた「ザーザー」や「ポツポツ」という雨の音も今では楽しんでいた。また、雨が降ることですごくさんの生き物が喜んでいるのだろうと何だかうれしい気持ちになった。

ある日の朝、山火事のニュースを見た。火が次々と森に広がり消火活動は追いつかない状況だった。現場の近くに住む人々は不安だっただろう。そんな時、救世主となったのは「雨」であった。人々は「恵みの雨だ」と涙を流し喜んでいった。雨はとても偉大な力をもっていた。

しかし、雨がもたらす影響は決して良いことばかりではない。大雨の影響では、たくさんの住宅が壊れ、亡くなられた方もいる。やはり、どんなことにも代償はつきものだろう。雨で幸せなことも起きれば、不幸

なことも起きるとのことだ。でも、私は雨がにくいとは思わない。なぜなら、雨のおかげで水があるからだ。雨が降り、川できて海になる。熊本のおいしい水も雨からできているかもしれない。地球の表面は約七十パーセントが水に覆われている。けれども、そのうち人間が利用できる水はわずか約三パーセントほどしかない。そんな貴重な水に私たちの熊本県はめぐまれている。熊本の美しい水を私たちは受け継いでいき、自然を守りたいと思った。

雨は私たちのことを支えている。雨は魔法のようだ。雨はどれだけの命を救い、時にはうばい、人々に影響しているのだろうか。これからも、うまく雨とつき合い日本の美しい水を、熊本のおいしい水を守っていきたい。ああ、もつと雨の素晴らしさをたくさんの人に知ってほしい。雨のおかげで生きていること、水があるということ。雨よ、ありがとう。ザーザーと降る雨に私は語りかけた。

【入選】

水と我が家の農業

熊本県 熊本県立玉名高等学校附属中学校 二年 和田 夏輝

私の祖父母と母親は農業を営んでいる。育てているのは、米、みかんやぶどうなどの果物、そして、キャベツやピーマンなどの野菜だ。米、その他の果物は売ったりしているが、野菜は自分たちが食べるために庭の畑で少量栽培している。その畑や田んぼの水などは、地下水を利用して育つのだ。

しかし、最近は地下水汚染が問題になっていると母から聞いた。地下水汚染とは、揮発性化合物、重金属、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素などが地下水に入りこむ、つまり、汚染することで起こるものらしい。地下水は、いったん汚染されると浄化することが容易ではなく、汚染が拡散することもあるので、早期の調査と対策が必要で、有機物質の地下浸透を未然に防止することが何よりも重要だという。この地下水汚染が熊本に、さらに私が住んでいる地域にまで広がってしまったら、畑や田んぼで稲や果物、野菜が育てにくくなってしまふ。

気になった私は、母に大丈夫なのかたずねてみた。すると、「うちは山からも水を引いているから、大丈夫だよ」と言われた。

山から流れている、つまり川などから流れている水も使っているのだ。私は、それも汚染などがあるのではないかと思ひ調べてみた。

山から流れてくる水は、雨が源となって流れているらしい。そして、その雨は海から蒸発して、雲になり、降っているらしい。そこで、私は海についても調べてみた。

すると、海では海洋汚染が進んでいるらしい。そしてその原因のひとつは海洋ごみ、特に海洋プラスチックごみが深刻であるらしい。この汚染が進むと、多くの海洋生物が死んでしまうという。これによって、食卓にいろんなものが出てこなくなるだけでなく、私のお兄ちゃんの趣

味である魚釣りをしにくくなってしまふ。また、海洋生物が減ってしまうということも、海の生物のバランスが崩れてしまうということでもある。つまり、海の水質も、海洋生物の支えがなくなり、一気に汚染されるかもしれない。それが雨となり、山に降ると、川まで汚染されてしまふ。

そうしないためには、まずは自分ができる範囲で水を守ろうと考えた。そのために、私は今挙げた問題に対して、できることを調べた。

地下水汚染については、高度な技術が必要で、私ができるものではないが、海洋ごみについては、私にもできることがある。それは海だけ

でなく、街中でも捨ててはいけない。なぜなら、街中で捨てたはずのものが、風に吹かれ、その後川に流され、海に出るかもしれないからだ。

そして二つ目はエコーベルが買ったものを買うことだ。エコーベルとは、適切な漁業管理と水産資源の利用ができており、その中で持続可能で環境に配慮した漁獲あるいは養殖された水産物であることを表すマークである。つまり、環境にいいものを買うということだ。

ものすごく当たり前のことだが、家族の全員が釣りや農業などで水に関わっている。そして、これからも、水と関わって楽しく生きていきたいから、私は環境に、水にいいことをしていきたい。

【入選】

トマトのために

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 大場 良樹

私はトマトが大好きだ。私の兄弟はみんなトマトが嫌いだけれども、私はトマトが大好きだ。トマトには、リコピン、ビタミンC、食物繊維など、様々な栄養素が豊富に含まれており、健康などに良い影響をもたらす。特にリコピンは抗酸化作用が強く、生活習慣病に役立つとされている。

私の祖母は庭で高糖度のトマトを育てており、小さいときは、よく水やりの手伝いをしていた。高糖度トマトは、一般的なトマトよりも糖度が高く、フルーツのような甘みが特徴のトマトだ。収穫の時期になると祖母は、私に育てたトマトをたくさん食べさせてくれた。祖母の育てたトマトの味は、普通のトマトとは比べ物にならないほど美味しく、甘かったのをまだ覚えている。

そこで私は、母に、頼んで高糖度のトマトを育ててみることにした。しかし、何日かすると葉が黄緑色になっていき、枯れてしまった。

その後も、何度もチャレンジして土を変えたり、プランターを変えたりして、トマトは出来たが、祖母のトマトのように甘くはならなかった。どうして祖母のトマトは甘いのに私のトマトはあまり甘くないのか。気になって調べた結果、祖母のような高糖度トマトを作るためには、果実肥大期に水やりを控えることや水やりをコントロールし、土壌の通気性をよくする、マルチシートを使うなどの工夫が必要だということが分かった。思い返せば私は、毎日同じ量の水をトマトに与えていたし、その他の工夫もあまりしていなかったことを思い出した。

私は、調べたことをもとにもう一度高糖度トマトの栽培にチャレンジし、とうとう成功することが出来た。その年に私は、祖母の家に行き、祖母の育てたトマトのような甘くて、美味しいトマトを作ることができたことを伝えた。祖母は、私がトマトを作れるようになったことを喜んでくれた。けれど、祖母は「最近、トマトに間違っって、汚れた水を与えて

しまつて、トマトを枯らしてしまつたよ。よつちゃんもトマトを育てるときは、きれいな水を与えてあげんとだめよ。」と言われた。

そこから、私は、現代の水問題の一つでもある水質汚染について、考え始めた。水質汚染とは、河川、湖沼、海洋などの水質が悪化する現象のことです。主に人間の活動によって引き起こされ、水中の生物の生態系に悪影響を与え、さらには人間の健康にも影響を及ぼす場合がある。水質汚染の原因には温暖化による水温の上昇や酸性雨、噴火や大型タンカーの座礁など、突発的な事故などが挙げられている。しかし、水質汚染の一番の原因は、人口集中などもあつて生活排水だつた。

生活排水が水質汚染の原因となる理由には、有機物や窒素・リンなどの物質が含まれており、川や、海に流出すると水質を汚染し、生態系に悪影響を与えるからだ。また、生活排水を出しているのは、暮らしている私たちであり、一人一人が責任を持つて、水を汚さないように意識し続けることが必要である。

私は今、水を汚さないために、「食べ残しをしない」「油污れをしつかりふき取る」「洗剤を使いすぎない」「トイレをこまめに掃除する」「ゴミを適切に分別してリサイクルする」「シャンプー、リンス、洗濯洗剤などは適量を守る」などのこの家庭でも出来るようなことを家庭で意識して行っている。

もし、このまま水が汚くなつていけばトマトを育てて食べることができなくなるかもしれない。これからも美味しいトマトを食べるためにも私たちには、水をきれいにする責任がある。今後も美味しいトマトを育てて食べていくためにも、私は普段から水をきれいに扱うように努力し続けることを今心に強く思う。

【入選】

水が生まれ変わるその日まで

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 菊川 蒼馬

小学生だった頃の夏、私は江津湖という大きな湖に行った。江津湖の水はきれいに透き通っており、とても冷たく気持ち良かった。水の中には何種類もの魚が泳いでいてとても美しかった。

私の住む熊本は、人口約七十四万人分の水道水源を百パーセント地下水で補っている。それほどまでに水が豊富な都市である。このような都市で育った私は、水道から美味しい水が出てくるのが当たり前だと思っていた。当たり前ではないと気づいたのは、初めて九州の外に旅行しにいった時だった。

九州の外に旅行で行った日、私は一日中歩き回って疲れ果てていた。ホテルに着いたとたん、水道まで急いだ。そして、いつも通りに水道の水をついで飲んだ。その途端、熊本の水道水と味が違うとすぐに分かった。私はとても衝撃を受けた。そのくらい、熊本の水の水道水は美味しいのだ。こうして、私は熊本の水の凄さを改めて実感した。そして、熊本の水は安全でおいしいままであるだろうと思っていた。そのようにして、今まで過ごしてきた。

ある日、私は一つのインターネット記事を目にした。私の住む熊本の井戸水から発がん性物質である「PFAS」が検出されたというニュースだ。私の当たり前が当たり前じゃなくなった気がした。熊本の水がどうして汚染されているのだろうと考え詳しく調べてみることにした。するとPFASという物質は発がん性物質であるほか、産業廃棄物の埋め立て処分場や半導体などを製造している工場の近くに多くあるということを知った。

豊富で美しい地下水とともに育った私はとても衝撃を受けた。自分の住む熊本の水質が悪化してしまうなど考えたこともなかった。今まで安心して飲んでいた水道水が汚染されている可能性があるということを知るととても恐ろしかった。

私は、部活動の帰り道によく用水路の近くを通る。小さい頃はそこにいる鯉や亀などの生き物を見に行ったこともある。最近は自転車で帰るようになり、暗くなるまで部活をしているため、用水路を見る機会がなかった。しかし、熊本の水が汚染されているというネット記事を目にした日、用水路を少しだけ見てみようと考えた。用水路に目を向けると小さいころに見た用水路の景色とは全く異なるものとなってしまっていた。用水路はヘドロのようなものがたくさんあり、緑に濁ってしまった。それだけでなく、鯉の死骸まであった。近くの家庭から流れ出てくるものは洗剤が混ざり泡立った水や、油などの環境に悪そうなものばかりであった。私は、PFASなど自分の生活から少し離れた場所だけに汚染問題があるのだと思っていた。しかし、このような自分の身近なところにも汚染問題があるのだと知りとても悲しくなった。改めて、環境問題について考えさせられるきっかけとなった。そして、環境問題の被害を受けているのは人間だけではないということ思い出した。

また、世界的に見ても、水の汚染問題は多くある。例えば、地球温暖化の影響で河川や海水が汚染されてしまうというものがある。地球温暖化の影響で河川や海水の温度が上がることによって植物プランクトンが増殖しすぎてしまうことで、水中の酸素濃度が低下してしまい水域の近くに住む生物が窒息死してしまうことがある。

このように、近年、水質汚染の問題が目立つようになってきている。そのため、水資源の大切さを改めて考え直す必要がある。汚い洗剤が混ざった水がそのまま排水口に流れていないかなどひとりひとりが水に対する考え方を変えていくことが大切だと私は考える。

【入選】

泡から発展

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 武部 栞己

ある時、用水路に泡が流れていた。私は家族にそれは何かと聞いたことがある。家族は洗濯や風呂で使った洗剤やシャンプーなどと言った。また、小学生のとき、下水道の役割や仕組みについて学んだ。どちらも、水質汚染に関係するものである。あなたは、水質汚染について知っているだろうか。

私の住む地域では、水質汚染が発生している。私達が台所やトイレ、風呂、洗濯で使った水のことである生活排水は、多くの地域で下水道で処理されて海へ流される。一方で、私の住む地域には、下水道が通っておらず、合併浄化槽や単独浄化槽という機械によって処理され、用水路や川、海へ流される。多くの方は、下水道の役割や仕組みについてわかれると思う。しかし、合併浄化槽や単独浄化槽について知らない人が多いと思う。

合併浄化槽と単独浄化槽は役割が似ている。合併浄化槽は、家庭から排出される生活排水をすべて処理するものである。ところが、単独浄化槽は、トイレの排水のみを処理し、その他の生活排水は処理せずに、そのまま川や用水路に流してしまうものである。現在、下水道が通っていない地域では、合併浄化槽の設置が義務化されており、単独浄化槽を設置している家庭は少なくなってきた。だが、私は祖母と一緒に暮らしており、古くからある古民家に住んでいる。家はだいぶ古く、合併浄化槽の設置が義務化されるよりも前に建てられた。だから、未だに単独浄化槽を利用して、トイレの排水だけを処理しており、その他の生活雑排水はそのまま近所の用水路に流れてしまっている。もちろん、合併浄化槽を設置したほうが良いのだが、それを設置したり、単独浄化槽から合併浄化槽に転換したりするには莫大な費用がかかってしまう。そこで、私は、単独浄化槽を合併浄化槽に変えることは難しいと考え、今まで以上に生活排水を少なくしようと試みた

まず、生活排水は、用水路から海に流れてしまうので、多くの生活排水を流さないように、入浴時ではシャンプーやボディソープの過度な使用を控えようと考えた。よって、私は入浴時にシャンプーやボディソープをあまり使いすぎないようにしている。過度な使用を控えることで、シャンプーやボディソープのような身体洗浄料の無駄遣いを減らすことができる。さらに、身体洗浄料の過度な使用は、皮膚を傷つけてしまったり、健康に悪影響だったりするので、過度な使用を控えることで、体にも良く、環境にも良いので、一石二鳥である。加えて、食器や服を洗うときに使用する洗剤の量も、洗車や靴を洗う時の洗剤の量も減らそうと考えた。これも身体洗浄料の過度な使用を控えることと同じ考え方である。他にも油污れが多くついた皿をシンクで洗う前に不要な布や紙で拭き取ることも水質汚染を防ぐために良い行動だと思う。

そのような行動を続けると、近所の用水路が以前よりきれいになった。そこにカワセミが飛んできて、水中にいる小魚を食べているところを見た。カワセミという鳥は水中にいる小魚やエビ、カエルなどを食べる。また、水中生物は汚い水中に生息しないことが多く、カワセミはきれいな清流や川などを好む。だが、以前の用水路は、小魚のような水中動物もおらず、鳥類も近寄ってこないような場所だった。したがって、近所の用水路は以前よりも大幅にきれいになったと考えた。というものの、カワセミが来たのは偶然かもしれない。再度、カワセミが来てくれるよう、よりきれいな用水路を作るために、今後もがんばりたい。

このように、水質汚染は人にも動物にも環境にも大きな悪影響を及ぼす。だから、水質汚染についてよく理解したり、生活排水を減らす努力を続けたりすることが必要不可欠である。

【入選】

宇宙の水

私の将来の夢は宇宙物理学者になることだ。正直、宇宙関係の仕事であれば喜んで仕事に就くと思うのだが私が宇宙物理学者を目指す理由は人の役に立つためでも、文明のさらなる発展のためでもない。いや、私の願望には確かにそれも入っているだろうが、そんなもの、広大な宇宙を前にすれば、些細なことである。ただ、人類のことなどどうでもよくなるほどに宇宙の広大さと神秘に魅せられたのだ。宇宙に興味を持ち始めたときから宇宙についての本を読んだり、宇宙についての番組が放送されていけば夢中になって見たりするようになった。そこで特によく目にする宇宙についての話題は「水」のことであった。

宇宙について考えるうえで、「水」という存在はとてつもなく大きなものだ。水は生命の存在を示す可能性、宇宙探査における資源としての重要性、そして天体の構造や運動を調べるためのトレーサーとしての役割など、多岐にわたる重要な役割を果たしている。これだけでもなんともしロマンのある話だが、星間物質として豊富に存在する水分子は宇宙の至る所に存在し、なんと約百三十億年前の初期宇宙から水分子が検出されたという報告もある。時と場所を超えてこの宇宙を美しく飾り立て、存在し続ける水は私たち人間にとってもまた、生きるうえで欠かせないものである。確かに、この無限に近い宇宙で、水は多く存在するだろう。しかし、そこで私たちが勘違いしてはならないことは、地球にとつて、「水は限りある資源」だということだ。

水の惑星と呼ばれるほど豊富な水をたたえた地球に住む私たちは、なぜ水について限りある資源だと考えるようになったのだろうか。気になつてインターネットを用い、調べてみると、地球の水資源のうち、私たちが主に利用する淡水はなんと約三パーセントにすら満たないということがわかった。しかも、そのうち実際に利用できる淡水はさらに少なくなるといい、その不足はますます深刻化しているという。数十年にわた

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 松永 美紗

る水の不適切な使用、不適切な管理、地下水の過剰な汲み上げなど、主に先進国による著しい文明の発展の影で、私たちが見て見ぬふりをしてきた問題は徐々に大きくなり、近年、明るみに出たことで私たちはようやくその深刻さを捉え始めた。現在、十四億二千万人が水に対する脆弱性が高い地域で生活しており、そのうち四億五千万人は子どもである。私たちは豊かな生活を送るために水を最大限利用してきた一方で、皮肉なことにはその行為が近年、私たちの生活を脅かそうとしている。世界の五人に一人が水を十分に使えずにいる今、私たちはこのままの生活を続けて良いのだろうか。私たち日本人を含め、先進国の人々がもたらした水問題は、水への脆弱性が高い地域に住むなんの罪もない人々が一身に負担を負っているこの現状、私たちがこのままの生活を続けることは決して許されるべきことではないはずだ。

そこで、豊かな生活を送るために水を最大限利用してきた一方で、皮肉なことにはその行為が近年、私たちの生活を脅かそうとしている今、私たちに何ができるのか考えてみた。私たち日本人にできることは、一人一人が節水を強く意識することにある。これはとても初歩的で簡単なように思えるが、一人一人が意識をするということはとても難しいことである。日本の人々に節水を意識してもらうにはやはり、世界の水問題の現状と、節水がいかに効果的であるかを理解してもらうことが大切である。

水問題は、今日の人々の命を危険にさらし、将来の世代の暮らしをも脅かしている。私自身、水について調べるようになって初めて知ったことは数多くあり、節水を意識するようになった。この星を、宇宙をより美しくする水を守るため、水をこれから守っていくと、私は心に誓った。

【入選】

貴重な資源を大切に

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 松本 彩楓

水は私たち人間にとって欠かせないものです。特に農業は毎日たくさんのお水が必要で、栽培することができません。水が不足してしまうと葉っぱがしおれたり、丸まって垂れ下がったり葉先が枯れたりして育たなくなってしまうんです。私の祖母はいちご農家をしていて毎日欠かさず水やりに行っています。私は祖母の水やりについて行ったことがあります。畑に行くときと皆さんの水が管から出ていました。ここから出てくる水はどこから来ているのだろうと不思議に思った私は祖母に聞いてみました。すると、「川から用水路に流れている水を取り込んで出ているんだよ。」と答えてくれました。水は川から流れた用水路からも使えることを初めて知り、川に汚れた水を流したりゴミを捨てたりしてしまうと農業に影響することが分かりました。この経験を経て、私は水が汚くなると困る人がいるということを知ったのでこれまで以上に水をきれいに、大事に使いたいと思いました。

いちご農家の水やりでは夏の日に水を与えるといちごが暑さで弱ってしまうので早朝か夕方に水やりをします。水をあげすぎると糖度が十分に上がらず、腐敗などの病気にかかりやすくなってしまうんです。いちごの水やりは土の表面が乾いたらたっぷり与水え、特に花や実がつく時期は水を切らさないようにすることが大切です。水がどれほど貴重でありたいものかを実感したので他の地域での水問題についても調べてみました。

私の姉が一年前に中国研修に行ったときに聞いた話です。その時に、水道水が飲めないから、ペットボトルを持ち歩くことや、トイレトペーパーが流せない場所が多いと聞きました。一方で、熊本県には一〇〇〇ヶ所以上の湧水があると聞かれていたり、阿蘇山などの地形や火山活動によって豊富な地下水が湧き出ていることから「水の国」と呼ばれたりします。地下水に含まれるミネラル分や炭酸水がバランスよく溶け込

んでいるため、きれいでおいしい水を飲んだり使ったりすることができています。熊本県は水道水のほとんどを地下水でまかなわれていますが、水はただ蛇口をひねれば出てくるものではなく自然の恵みを、それを大切に使うとする人々の工夫や努力によって支えられているのだと私は感じました。

しかし、それが当たり前になって水を大切にすることを忘れてしまっている人が多いと思います。水不足に苦しんでいる人々は大勢います。世界では安全に管理された水を飲めていない人が四人に一人です。これは世界人口の約三分の一に相当します。安全な飲水が確保できない国は命をかけて水を運んでいると思います。だから、水を大切にするという意識を持ちながら生活し、実際に行動に移すということが大事なのではないでしょうか。私たちにできることは、水を流しっぱなしにせず蛇口をこまめに閉め閉めすることや、風呂の残り湯を洗濯の時に再利用することなどを意識をもってすることです。また、歯を磨くときにコップを使うようにすることや、食器を洗う前に汚れをふき取ると洗うときの水を減らすことができます。このような節水を面倒くさがらず、積極的に取り組むと良いと思います。また、ユニセフ募金という活動では少しでも子どもたちが笑顔に暮らせるといいなという気持ちを持って募金をしようと思います。

私は自分から積極的に節水することを心がけて、恵まれた環境を守っていききたいです。そして、私一人の行動だけでなく、家族や友達にも水の大切さを伝えていけたらいいなと思います。みんなで協力して、水を大切にできる社会になったら嬉しいですね。

私はこれからも日々おいしくでききれいな水が使えていることに感謝して、大切に使うことを心に誓いました。

【入選】

変えられる未来

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 村山 紗希

私は地元が好きで自慢できる場所だと誇りに思っている。特に自慢したいのが川の水の綺麗さだ。私の地元にある川は透き通っていて生き物もたくさん生息している。さらに夏には水遊びのできる場所としてたくさんの方から人気の場所となっている。しかし、最近川で生き物の量が減っているように感じた。また、川沿いにゴミがポイ捨てされているのを見かけた。だからポスターを貼るといった対策を行うべきだと思う。

すぐにポスターを貼るというのは難しいため、地域での取り組みについて調べてみた。すると川の水のための清掃といった活動はしていないという回答だった。正直私はしていないことに驚いた。しかし清掃活動を実施すると住民の方に協力していただくために呼びかけが必要となってくる。住民の一員として協力するべき内容であるが、一人の意見で実施するとは難しい。私はこの事実から川を綺麗にしたいという思いが一層強くなった。

協力してもらうことが難しいならば私一人でも清掃活動に取り組むべきだと思い、取り組んだ。清掃活動としてゴミを探してみると見かけたゴミよりも多くのゴミを見つけた。そうなると思われる原因は川の近くに自動販売機があるが、ペットボトルや缶用のゴミ箱がないことが大きいと思われる。またベンチも近くにあり、そこにもゴミが多く捨てられている。これらの事から近くに飲食できる場所があるとその場に捨ててしまうことがわかった。対策としてはゴミ箱を置くということができ、置くことさらにゴミが増えてしまうのではないかと予想が立てられる。今回がそうだっただけでもいけないかという予想が立てられたら生き物たちが間違えて食べてしまうという恐れがある。このような問題を根本的に解決するためには呼びかけ、ポスターというのがさらに状況を悪化させずに良い状況に変える最適な対策ではないかと考える。

水質を綺麗に保つための象徴としてホタルが挙げられる。ホタルは綺麗な水辺を好む特徴があり、実際に今もたくさんホタルを見ることが出来る。季節にもよるが最近では数年前と比べ見る数が少なくなったように感じる。これは川の水質が関係しているのではないかと考える。今回見た川は中流の方で上流の方を見るともっとゴミがあるからその水が中流にも流れることで水質の変化が起きるといった可能性もあることがわかった。

今回すべての問題の解決には至らなかったが今回の活動がなければ地元に対する思いは変わらなかったと思う。積極的に地元に貢献して終わるといったのはもったいないのでぜひ機会があれば町内でこういうことについて意識していただき、町内全員で綺麗にするという意識の向上を願っていききたい。

私達人間は水がないと生きていられない。そんな水を守るためには皆さんの協力が必要だ。それは人間以外にもそうだ。川の中はたくさん生き物の家となっている。そんな生き物の家を大切に今から、未来まで守っていくためにみんなで協力して守っていくべきではないだろうか。このことを周りの友達や家族、親戚に伝えていければ水に対する意識を変えられる。そのために自分から、身近な人、もっと遠くまで協力の輪をたくさん広げて意識を変えていく。そのサイクルが繰り返されるといっかには県民という規模まで発展していくかもしれない。でもそのくらいみんなの水の意識が変わっていくときっと人々も水に住んでいる生き物も過ぎやすい世界になっていくだろう。そう信じてもっと地元へ貢献できる活動をたくさんしていきたい。

【入選】

ひとりひとりの心がけで変わる未来

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 山下 夏音

私の住んでいる熊本県は最近TSMCが菊陽町にできました。TSMCとは、台湾に本社を構える半導体受託製造（ファウンドリー）の世界最大手企業です。熊本はもともと地下水が豊富で、水や自然がとても豊かな土地です。TSMCが進出してきたことによって、二〇二二年から二〇三一年の十年間で約六・八五兆円の経済波及効果が熊本県内に生じる見込みですが、熊本の大事な資源の一つである地下水の枯渇や水位低下が懸念されています。

「ママ、水おかわりー。」

私は昔から水が大好きで、レストランでドリンクバーを頼んでも、自販機でジュースを買ってもらっても、ずっと水を飲んでいました。だから、母に「せっかくドリンクバーを頼んでいるのになんで水ばかり飲むの」や「ジュースを買った意味がないじゃん」と怒られたこともあり、それくらい、あのなんとも言えない、飲んだ瞬間、体が冷えるような頭が冴え渡るような感覚。飲み終わっても、また飲みたくなったら蛇口をひねり、すぐ出てくるおいしくきれいな水を飲む。これまで私は水は無限にあるものだと思っていました。

でも、水は有限でとても怖いものだと考えさせられたある災害がありました。令和二年七月に起きた土砂災害です。両親の職場や私のお気に入りの公園が洪水のせいでぐちゃぐちゃに壊されてしまいました。そして、球磨川を流れる土石流、川は茶色く濁り、大木は流され、昨日まで見ていた世界とは全く違い、とても困惑し、怖くなった記憶があります。今でも、たまにあの光景を思い出すこともあり、雨が降る夜はなかなか眠れないこともあります。

しかし、私たちが生きるためには欠かせない水。水がない環境にいると三日から五日で人間は死んでしまいます。私の地域では主に地下水を使って生活していますが、その水が最近減ってきているということ

ユースや新聞で見たことがあります。TSMCが熊本に進出してきたことにより、熊本の大事な資源である地下水をたくさん消費しているということ。熊本が発展していくことはとても嬉しいけれど、大事な資源を無駄にはしてほしくありません。世界では、発展途上国や乾燥帯を中心に慢性的な水不足、それによる脱水症状で毎年たくさんの方が失われています。そんな中、蛇口を締め忘れていたり無駄に水を使ったりして、世界の大切な資源を無駄遣いしている人々がいいます。無駄遣いしているその水さえあれば助かる命がたくさんあるのに、無駄に使っているのでしょうか。私は、水の怖さも心強さも知っているつもりです。「歯磨きをするときは蛇口を締める」や「お風呂の残り湯で洗濯をする」とか、どんなに小さなことでもみんなを取り組むことができれば、一日に何トンもの水を無駄に使わずに済みます。ひとりひとりの心がけで変わる未来があります。世界を良くするのも悪くするのも私たち人間なんです。もし未来を変えることができるのなら、水がなく人間だけではなく生きるすべての生物が困る世界より、水があり快適な生活をすべての生物が送れる世界のほうが、私だけではなく誰もが良いと思います。

私も、後世を生きる子孫たちに、私の大好きなおいしい地下水を飲み続けてもらうために、歯磨きをするときはコップを使ったり、皿洗いのときにはある程度のお皿をためておいてから、水を出しっぱなしで洗ったりしないように、自分でできることから節水を心がけ、声掛けができる余裕があるときは「無駄遣いはあまりしない方がいいよ」と言っていこうと思いました。

【入選】

当たり前前じやないこと

熊本県 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 三年 宮本 亜季

私は二月にインドに短期留学に行きました。インドには、美しい世界遺産や、国の特有の文化、現地の人々の優しいおもてなしがあつて、「とてもいいところだな」と感じました。

でも、そんなインドで一つ問題になつてるのが水質環境です。私たちの住む日本では蛇口をひねつて出てくる水は普通に飲めるし、いろんな国の中でも川や海は比較的にみて、キレイに維持されています。一方インドでは水道水を飲んだら、お腹を壊したり、浄水がよほどできてない水だったら死んでしまうこともあるようです。また、ヒンドゥー教の聖地とされているガンジス川は沐浴や宗教儀式だけでなく、排泄や水葬にも利用されていると聞きました。かといって、屋台でペットボトルの水を買おうとしたならば、使用済みのペットボトルに水道水を入れて売られていることもあるそうです。なので生活する中で、水がたりなくなつたりしたら、水道水を煮沸消毒したり、次亜塩素酸を数滴垂らしたりして使いました。「不便だなあ」と正直思いました。

「ねえおばあちゃん、これ毎回しないといけないの?。」
「そうだね。でもこういう経験で日本の水のありがたさが分かるでしょう?。」

と、一緒に来ていた祖母に言われました。それを聞いて私は、「たしかに、日本で水がキレイなのは当たり前だったけど、ここではそうじゃないな。」と分かりました。流れる川や海の水も、売られたりされている水がキレイなのも資源が豊富で、いろんな整備が行き届いているからだと思えます。でもそれは偶然そうだった訳でもなく、誰かが行動に移して成つていることだから、今のインドの水質環境も、一人一人が小さなことから始めてみたらいいと思います。同じ地球に住む人間として他人事と

して考えずに生きていきたいです。

これから私はインドでの経験を通して、少しでも国の助けになることを出来たらいいなと思えました。水質環境を変える整備費や浄水器代などにまわる募金を少ししてみたり、水をキレイに保つためのポスターを応募してみたり、小さなことから始めてみようと考えました。自分の今住んでいる国の問題だけでなく、他国の問題にも目を向けて視野を広く持つていこうと思います。

【入選】

落ち着く場所

熊本県 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 二年

小田 倅輝

みなさんは心が落ち着く場所と聞かれたらどんな場所を思い浮かべますか。

私の家の近くには用水路がある。以前は毎年夏になると、そこにホタルが空一面に輝きながら飛んでいた。それを眺めるために、家族と一緒に用水路まで見に行き、その壮大さに心を奪われるほどだった。それほどまでに身近で美しい生物であった。

しかし、年々用水路を飛ぶホタルの数が減少していき、最終的にはわずかに輝く程度しか見られなくなった。調べてみると、「河川の汚染、中性洗剤の普及による汚物の沈殿と農業や化学肥料の使用による餌となる生物の減少」が影響していると書かれていた。その内容に私はあぜんとしながら納得した。今の用水路の水質の状態ととても重なったからである。今の用水路の底には、空き缶かペットボトルなどがあちこちに散乱しており、少し濁っている。この状態では、あの心を奪われるような美しい景色が二度と見られなくなるのではないかと思い、寂しかった。

全国的にもホタルの数が同じ理由で減少してきており、今や絶滅危惧種になっている個体もいるそうだ。ホタルを絶滅から救う取組みが行われていることを知り、私にもできることはないかと考えた。考えた結果、日頃水を使う場所から行動に移そうと考えた。具体的には、節水を心掛けることや汚れた水を流さないこと、洗剤やシャンプーなどは適量を使うことから始めた。もちろん、清掃活動の際には力を入れて取り組んだ。

私はホタルが空一面に輝きながら飛ぶ景色と水が流れる音があると心が落ち着く。水辺は私だけではなく、生物に対しても心の落ち着く憩いの場だと思う。そんな素晴らしい水がいつまでも透き通るようなきれいな状態にできるように、私はこれからも水を守っていききたい。

【入選】

「大切な教え」

熊本県 天草市立新和中学校 三年 大田 莉緒

私の中で、「水」と聞いて最初に思い浮かぶのは、おじいちゃんだ。多くの人は、水と聞くと自然などをイメージすると思うが、私はおじいちゃんの姿が思い浮かぶ。それは、おじいちゃんの生活から水にかかわりがあることが多いと思うからだ。

私のおじいちゃんは、畑や田んぼ、漁などの様々な自然に関する事をしている。その中で水は深くかかわっている。その中でも奥に水と深くかかわっていると思うのは、おじいちゃんのやっている、白魚漁だ。私は、昔からおじいちゃんがつっていたので、なじみがあったが、あまり白魚の存在について知らない人もいる。

私のおじいちゃんは、三月ごろから、よく白魚を取りに行くようになる。朝早くに行ったり、昼の暖かい時間にいたり、時間はさまざまである。白魚は、海と川のまじりあったところをとれる。産卵のために川のほうにやってきたところを取る。そのため、白魚を取るときは、静かにじっとして魚が来るのを待っていないとほならない。ただじっとしているだけではなく、魚が来ていないか見ておかないといけないため、かなり大変なことだと思う。それでも頑張るおじいちゃんのことを私は、本当にすごいと思う。

保育園に行っていたころは休みの日に、よくついて行った思い出がある。なぜこの場所であるのか、気になっておじいちゃんに聞いてみたことがあり、それで分かったのだが、白魚は水がきれいな場所での産卵を好むらしい。だからこの場所で行っているのかと納得できた。その頃の私は、まだ小さかったので、よく川の周りを歩いたりしていた。そして歩いていて感じたことが、その場所のきれいだ。水は透き通っていて、とてもきれいだった。水のきれいな環境を好む白魚にはぴったりだと思った。

そしてその時、私はおじいちゃんに教えてもらった。「どんな生物でも、

自分の生きやすい環境を望んでいる。だから、そんな生きやすい環境を整えてあげること、命をいただく権利ができる。」と。その頃の私には、あまり意味が伝わらなかったが、自然を大切にしなければならぬという、おじいちゃんの考えはよく伝わってきた。

その中でも水は、地球に住む多くの生物が必要としている。水をきれいにしていくことは、すべてのしぜんを守るうえで、一番大切なことだと思う。私もおじいちゃんのような、きれいな水や、環境を大切にできるように人間になりたいと思った。そして、自然の恵みに感謝しなくてはならないとも思った。

このように、おじいちゃんの教えや、自然の美しさから、私はさまざまな自然を大切にしようという大事なことを学んだ。今はあまり、おじいちゃんの白魚漁についていくことは少なくなかった。また自然のきれいに触れるために、ついて行ってみたいと思った。また、私の住んでいる地域には、ほかにたくさんさんの自然がある。その自然を守り、周りの人にその大切さを教えていくために、まずは勉強を頑張り、知識をつけていきたい。

【入選】

おじいちゃんとの魚釣り

熊本県 天草市立新和中学校 三年 尾田 桃也

僕は、熊本県の天草市新和町にすんでいます。お正月休みやお盆などで苓北のおじいちゃんの家に戻ると大体は魚釣りをしていました。苓北の坂瀬川の港や志岐の港などで保育園生のころから数え切れないほどおじいちゃんたちと魚釣りをしました。餌をつけるのが苦手でおじいちゃんにお願ひしてつけてもらったり自分でつけようと頑張っても針で自分の指を刺してしまったりもしました。この前のお正月にもおじいちゃんと志岐のみで魚釣りをしました。もう自分でも餌を付けたら魚を釣ったりできるようになった僕をみておじいちゃんは

「この前までこんなに小さくて餌を全然つけられないで指に針を刺しちゃったりや魚をよく逃がしたりしたのに。もう自分でもしっかりできるようになって、あの頃が懐かしいな。」

と喋ってくれました。いつからできているのか自分でも分からなかったのでもいつからできているのだろうと思いつながらもまた釣りを始めました。魚を五匹ぐらい釣った後に喉が渴いたので近くの自販機にジュースを買いに行きました。その時におじいちゃんがあることを口にしました。

「海がなかったらみんな魚を釣って食べることもできんし、今みたいにジュースも飲めないからもっと海や水、川を大事にしないとイケないね。」

と口にしました。その時に僕はこの言葉に「そうだ海がないと大好きな魚を釣ったり父さんや、おばあちゃんが作ってくれる刺身や塩焼きも食べたりできないのだ」と思いました。

他にも喉が渴いたときに水やジュースも飲めないのだとも思いました。その日は、魚を釣った後におじいちゃんの家に戻ってから釣れた鯛を刺身にしてお昼に食べました。水や海は自分達が生きるために必要なもの、また人間だけでなくたくさんの生き物たち植物たちにも必要であると思えました。今地球の水は年々減少しています。自分のことだけを考える

のではなく他の生き物達のことでも考えていきながら使っていきたいです。

【入選】

生き物にとって水は

熊本県 天草市立新和中学校 二年 岩本 快

夏休みになると家族と一緒に山の方の川へ出かけます。川につくと真っ先に車を降り、川へ。川は下流とは全く別で水がとて透き通っていて、水道水ぐらいきれいです。準備体操をして弟たちと入ってみると夏とは思えないぐらいの冷たさが僕の肌をつついてきます。川の中にはカニや魚がたくさんいます。しばらく泳いでいると大きなトンボが飛んできました。よく見るとオニヤンマでびっくりしました。僕のお父さんは「水がきれいだから来たのよ」と言いました。今ではなかなか見られないオニヤンマが来るほど、水がきれいだったなんて知らなかったです。僕は水がきれいなところには生き物がたくさんいるのではないかと考え、次の日近くの田んぼや川を見ました。するとクサガメやハゼなどの魚、タニシ、サギ、蛇、カエル、イモリ、トカゲ、数多くの生き物がいるということがわかり、僕の住んでいるところの水はきれいなのだなと思ひ、うれしくなりました。ところが、冬になると生き物を見なくなりました。僕ががっかりしていると友達から

「家の近くの川にカスミサンショウウオが卵を産みにきているよ」と言われました。初めて聞いた名前の生き物だったので

「何それ」

と聞いてみると

「詳しくはわからないよ」

といったため調べてみるとすごく珍しい生き物だということがわかりました。その生き物はカスミサンショウウオ、生息地は九州北部および西部に分布、大きさは8〜11センチで、2022年1月に特定第二種国内希少野生動植物に指定、鹿児島県では市指定天然記念物に指定されています。僕はすぐに友達の家に行きました。残念ながらそこにはカスミサンショウウオいなかったけどカスミサンショウウオのゼリー状の卵はありました。その中には小さい黒い粒がうねうねと動いていまし

た。友達は

「これがカスミサンショウウオになるのだよ」

と言ってきました。僕は驚きました。こんな小さな粒があんな大きく育つなんて思いませんでした。カスミサンショウウオは普段は水に入らず産卵の時だけ水に入るそうで、その水はともきれいな水じゃないと産卵しないそうで、僕の地元にはカスミサンショウウオが産卵できるきれいな水が流れていることに誇りを感じました。今では、森林伐採など環境破壊が進んで、川にはごみが捨てられ汚れ、生き物たちの住むところがなくなってきました。水は生命の源です。水が汚れば他のものも汚れる。これからの生活で水を大切にしていけることを心掛け水がきれいになるように、また生き物たちがいなくならないように自分でもできるようなことをやっていきたいです。

【入選】

つながる、きれいな町

私が住んでいる町は、とても水がきれいな町です。水がきれいなのは、町の人がゴミを捨てなかったりなどと気を付けていることで海や川、水がきれいだと思います。私の町は、とてもすてきな町なのです。

水がきれいなことで生活は、変わります。川の水が汚れていたりごみがあつたりすると水の生き物は、そこに住みたくなくなるかもしれません。川だけじゃなくて海でも、水がきれいだから魚はとも新鮮でおいしいです。海に住んでいる生き物だけではなく人間の生活にも変化は、あると思います。水が汚れていたら、遊ぼうとしても遊びたくなくなるし、釣りに行こうとするとときにごみがたくさんあるとする気もなくなると思います。洗濯をするときに使った水をそのまま流してしまうと水が汚れていきます。一つの原因で、いろんなことにつながり影響します。大丈夫と書いていてもとても大きなことにつながるのかもしれない。私の町の人は、そんなことも考えながら過ごしているからとてもきれいな町になっていると思います。水の大切さは、小さいころから学んできました。もし、災害が起きて水や電気とかとても大切なのだと実感しました。今までの生活で節約などといったことを聞きながら生活を送っていたこともありました。手を洗う時水を出しっぱなしにするのは、よくない。などいわれてきました。電気代などもそうだけど水を少しでも大切に過ごしているとなぜ大切なのか考えることができました。今の中学校では、自動で水が出る蛇口もあります。便利だな。いつも思っています。このように便利なものが最近は、開発されてきています。便利なものばかりに頼っていると便利なものがなくなるとき何もできなくなるかもしれません。水をきれいに考えながら生活すると水だけではなく、自分が住んでいる町がきれいになると私は思います。

私は、これからの生活で水だけではないけど大切にしようと思いがら生活を送っていききたいと思います。水がでるようにしてください

熊本県 天草市立新和中学校 二年 橋本 優那
に感謝の気持ちを待ちながら過ごしていきたいです。なので、みなさんも水について知っていることや工夫して生活ができることを探し生活を送ってほしいです。

【入選】

「限られた水」

熊本県 尚綱中学校 二年 杉原 安寿

「水」といって私が一番最初に思いついたのは、飲み水の天然水だ。私が小学五年生だった頃、自動販売機で天然水を買ってもらった。母は「日本の水は美味しいでしょ。」と言って私の目の前で水を一口飲んだその水にはどのような事がされているのか、どのように飲み水になっているのかとたくさん疑問がでてきた。普通なら海や川、湖などの水を飲めばいい、何もしなくてもきれいな水だから大丈夫と小さいころは思っていた。

でも周りの大人達は海の水をそのまま飲んではいけないと私達に言う。海の水ぐらい飲んでもいい、大丈夫と思いやすが大人達にとっては「美味しい水」「安心・安全な水」だとは思わないようだ。ではその大人達が思う「美味しい水」「安心・安全な水」とは何だろうか。「美味しい水」とは、ただの海や川、ダムなどの水をそのまま使っているわけではないだろう。私が小学六年生になった時理科の授業で水循環というのを学んだ。

水循環とは、海の水や川の水として常に同じ位置にあるのではなく、太陽のエネルギーによって海水が蒸発し水蒸気がでてくる、その水蒸気が雲になり、やがて地上に雨が降ると次第にまた集まり川となり海にたどりつくということ。でも、この水循環がずっと続くわけではない、今は絶えずに循環をしているのかもしれないが、水というものは無限にあるわけではないと私は学んだ。

小学六年生の後半になった頃、私はバケツでお米をみんなまで育てていた。やっぱり農業をする時でも「水」というものは必要だ。一週間水をやらなかったらもちろん枯れてしまう、それは人間も同じだ。人間と動物と植物なども水が必要不可欠なものであると思った。そんな貴重な「水」だが時にはいらないうことだってある。もちろん水は私達にとって「恵み」「生命の源・中心」だと思う一面もあるが、時には「災い」

というものを起こす。激しい豪雨や洪水、濁水などの「水」よっての「災い」の一面も持っている。水は、私達にとって「恵み」にもなるが「災害」にもなるということを中心にきざんでいきたい。

これからのように水と関わっていくか、私達、人間と動物、植物などのいろんなことに「水」というものを使う。また「水」というものを使って美しい水の景観などに心を癒されたり、水と自然にふれあったりと私達人間は水から豊かな生活、感性を育んだり、いろんな形で水からの恩恵を受けているんだなと感じた。水と関わることだけじゃなく、地域の人のつながり強化、防災力の向上などを心がけ、水のある生活を中心に地域をより健全で活気のあるものにし、その地域の一つ一つの価値をとみにみんなが高め合っていくことも今の私達に必要なことだと思う。

周りの人からしたらただの「水」だと思うかもしれないが、私達にとっては限りのある貴重な水なのだ。今、水がある、存在するということが当たり前になっているが、世界には水を飲めなくて辛いと思う人はたくさんいる。私達はそれを理解し、無駄使いせず、節水などの取り組みを力を入れていった方がいいだろうと思った。

「水」というものは、もしかしたら私達と動物、植物の全てにつながっており、支え合っている。私達一人一人にできることをしっかりと考えて、生活をしていきたいと心から思った。

【入選】

豪雨から学んだ水の大切さ

熊本県 尚綱中学校 二年 住吉 葵依

ザーザーゴロゴロ

令和二年七月のある朝、雨が降りはじめた。小学二年生だった私は登校班と一緒に向かう。傘をさしているが横やななめといるいろいろな方向に雨が降っている。服やランドセルがずぶぬれだ。学校に着いた。登校班の一年生、二年生の体をタオルでふいてあげた。朝の会が始まり、一時間目、二時間目が終わり放送が流れた。

ピンポンパーンパーン

「大雨のため三時間目が終わり次第一斉下校を行います。担任の先生の指示に従って行動してください」

休み時間だったため、みんなあわてていた。三時間目が終わり一斉下校が行われ、親が迎えに来るところもあった。しかし、私達の登校班だけ親が仕事で迎えに来てもらえなかった。私たちは先生と一緒に家まで帰った。しかし、その帰り道には雨水が大量に流れていた。足のひざ下5センチくらいのところまで雨水が流れていた。先生と注意しながら帰った。家に帰りつくると今日はゆっくりしようと考え、家でゆっくりしていた。この日は早めに夕飯をすませ早めにねた。

次の日、学校は休校になった。この日は、七月三日。どんどん雨は強くなり、人吉市近くのダムが氾濫した。球磨川も氾濫してしまい人吉市を襲った。その光景をテレビのニュースで知った。私はびっくりした。言葉を失った。なぜなら私が球磨神楽を習っている青井阿蘇神社が浸水してしまい、すず、せんすなどの道具が全部ダメになってしまったからだ。その後数時間がたち、水道が止まった。何の備えもしていなかった人たちは、飲み水などに使う水が一切ない状態だった。水をお店に行ける状態でもなかったためその日からすぐ生活に困ってしまった。私はそんな時に普段使っている水のありがたさと大切さに気づいた。私はそこまで、当たり前のように水を使ったり飲んだりしていた。人吉豪

雨の時、私の知り合いが水が飲めなくなったり使えなくなったりしているのを見聞きした。

私は、これまでに使ってきた水にたいして、感謝が生まれた。そこで私は水を寄付したいと思った。しかし、人吉市内まで三十分くらいかかるし、土砂もあつたため寄付しに行くことはできなかった。とてもくやしかった。歯磨きの時はなにげに水を出しっぱなしにし、コップを使つたとしても当たり前だなど思っていた。おふろのシャワーを出しっぱなしにすることもあつた。豪雨の時は、人吉市内で水不足が発生していた。

また、外国では水不足もあり、もうしわけない気持ちや水の大切さに気づかされた。私には何もできないことがないのか？と考えていた。私はいろいろ調べた結果、「支援金」を知った。被災した地域での救命や復旧活動などあらゆる支援に使われ、自分で応援したい団体や分野を選んで寄付することができることを知った。私は両親と一緒に支援金を寄付した。

また、これまでの水の使い方を見直し、歯みがきをする時はコップを使い、シャワーを出しっぱなしにしないようにした。みなさんも水の大切さを理解し、水の無駄遣いを減らそう。

【入選】

水と共に

熊本県 尚綱中学校 二年 原口 柚菜

照りつける太陽の下。疲れた手で、蛇口をひねる。走った後の水は、美味しい。横には、その日の暑さゆえに頭からおもいきり水をかぶる人もいた。一方私の口からは、水がしたたっていた。背後からせかす同級生の声で、私ははっとした。したたる水を手でふいて、皆んなが待つ方へ向かう。何気ない日常の一ページ。きつとまだ「当たり前」に、今日と同じ日が来るはずなのだ。小学生の頃の私、そして周りにいた同級生も、同じ事を考えているに違いなかった…。

本当に、そうなのだろうか。自分達が「当たり前」だからといって、他の人が、さらに言えば全世界の人が、そうであるとは限らない。それは今、日本に生きる私達でも知っている事だ。しかしながら、まだ私達は「事実」をきつと知らないだろう。

身近な事なら、熊本地震はどうだろう。九年前、熊本で起きた直下型の地震。あの日、多くの地域から灯りが消えた。水道も止まった。飲み水はもちろん風呂やトイレも使えなくなつた。私の家もそうだった。その時小さかった私は、蛇口から水が出ないという「当たり前」が失なわれた事に、とても驚いていた。すると、水はどこからか買うか、もうしかなない。しかし手に入った水は、限られている。考えて使わなければならない。そんな時、果たしてあの日の「当たり前」は通用するのだろうか。

さて、今近くに水道がある人は、その水道から出た水を飲んでもらいたい。出てきた水は安全か？もちろん安全だろう。そして、その水を飲んで怒る人はいないはずだ…。

では、他の国はどうだろうか。

たとえば、世界の国一〇〇人にそれぞれ一人の人がいる状態としよう。あなたがその中の一人で、水道から出る水が飲めるのならば、残りの九

十四人より恵まれている。つまり、現在蛇口から飲み水が出てくる国はたった十二か国ということだ。

では、そもそも安全な水を得られる人口はどれくらいなのだろうか。たとえば、世界の人口を百人としよう。そうなると、内七〇人は、汚れた水を飲んでいる。しかもその汚れた水だって、簡単には手に入らない。遠くの川まで歩かないといけないかもしれないし、どこから重いタンクをかかえてこないといけないかもしれない。しかし手に入った水は汚水だ。そういった環境で、あの日の「当たり前」は通用しないだろう。水なんか飲ませてもくれないだろう。何時間も、歩き続けなければ、汚水でさえ手に入らないのだから。

私達が「当たり前」だと思っていた事は、どうやら「当たり前」ではないようだ。そして、日本では普通のことだからこそ、それらを疑って生きている人はきつと少ないと思う。事実、私も例外ではない。

ならば、私達に出来る事とは、一体なんなのだろうか。私は、「行動すること」だと思う。どんなに自分で考えても、行動しなければ何も変わらない。知っても、感謝しても、結局どこにも届かないという事が現実だ。だから、行動する。一歩進む事さえ出来れば、案外やれる事は色々あるかもしれない。

そして、解決しようとしている人を信じる事。批判的な思想は間違えたと悪い方向に向かってしまう。ある程度まで行ったら、任せることもきつと大切なはずだ。

今日も、蛇口をひねる。コップに入っていく水は、輝きに満ちている。

【入選】

熊本の水とこれからも

熊本県 尚綱中学校 一年 鎌田 美咲

私は小さいころ、阿蘇の川に遊びに行ったことがあります。透き通った美しい水が激しく流れる音や、たくさん木から放出された酸素にかこまれた大自然で心の底からいやされたことをずっと覚えていきます。

しかし、熊本県には数年前に半導体を製造する工場ができました。日本の工業や、熊本の経済が発展していくことは、とても喜ばしいことです。熊本がほこる地下水が不足してしまうことが不安視されています。さらに、二〇五〇年には、地球温暖化や人口増加などにより、四人に一人が水不足に悩まされることが予測されています。

半導体の工場が来たのは、熊本の地下水がきれいだからです。なので、工場も水を使い未来の私たちも十分に水をつかえるために、今の私たちにできることはなんでしょう。

節水などの身近なものから、地球温暖化対策などの、ひとりひとりの意識が形になるものまであります。最も手軽にできる節水は、水をつかいないことをつねに心がけることです。他にも、お風呂の残り湯を植物の水やりにつかったり、雨水をためて生活用水にしたりするなど、私たちにできることはたくさんあります。また、コップ一杯分のみそ汁、ジュース、コーヒーなどの生活排水を魚がすめる程度まで希釈するためには、相当量の水が必要です。これは、私たちが日常で排出するものがどれだけの水を汚染するかを知り、水不足対策への意識を高めさせます。そういったことを学ぶことも、一つの節水の形となります。

また、私たちができる地球温暖化対策も、たくさんあります。電気であるエネルギーを省エネしたり、車などの二酸化炭素が出る行動を見直したり、ものを大切にしたり、身の回りですることでもたくさんあります。

このような地球温暖化対策は、水を守ることにもなり、持続可能な社会を築き、将来の世代が安全で豊かな生活をおくることにもつながります。

す。子どもから大人までが、このことをしっかりと理解することが、水を守ることも言うことができます。

このように、私たちの生活にかかせない水を守る方法はいくらかでもあり、一人一人の行動でたくさん命と、未来の命が救われていきます。私たちの行動で、尊い水が守られていくのです。

私たちが暮らす地球の物資は、とても大切につかわなくてはすぐになくなってしまいます。未来の人類がどんだんこの地球を発達させていくため、未来に引きつがれる物資を大切につかきましょう。そのために節水に日々取り組み、学びましょう。さらに、国がほこる熊本の天然水を守るためには、さらに強い意識が必要となります。たくさん命の取り組みをたくさんの方が行って、熊本の豊かな自然を守る必要があります。未来の子孫に、地球の発達をたのむには、現代の私たちの努力が必要不可欠となるのです。

【入選】

自分のために

熊本県 尚綱中学校 一年 倉田 紗菜

私は幼いとき、よく洗面台で水遊びをしていました。お母さんに見つかれば、その都度

「こら。無駄遣いしないの。」

と怒られてしまいます。当時の私は、

「うるさいな。別にいいじゃん。」

と反抗していましたが、年を重ねるごとに、

「お母さんに怒られるからいけない。」

「水道代がかかってしまうからいけない。」

と無駄使いをしてはいけない理由を年々、更新し続けていました。

そして、最近水を無駄使いしてはいけない新たな理由ができました。それは「環境のため」です。

私は、小学四年生のときの通潤橋見学、小学五年生のときの水俣学習で水への思いが少し変わりました。通潤橋の下を流れる、ゴミ一つない五老ヶ滝川。水、一滴も無駄にしない構造になっている通水管。水を見て、こんなに感動したのは初めてでした。白糸台地に水を送るためにたくさんの方の力で作られた通潤橋。これからも熊本之宝として大切にしようと思った一日でした。

しかし、当時の私は、

「通潤橋ってすごい!。」「大切にしよう。」

と思っただけであり、自分の生活に結び付けて考えてみよう、なんて思いませんでした。今でも、通潤橋を実際に見て、もっと考えられることがあった。と思うと悔しくなりません。

そして、いろいろ学習して行った水俣学習。私は正直、

「ほとんどのことを学習したし、新たに感じることもなくてあるのかな。」
と思っていました。水俣資料館で実際に狂ったように暴れる猫の映像や、水俣病患者さんのお話など新たに感じるものがたくさんありました。水俣の海はとても綺麗で実際に泳ぎましたが、ゴミ一つ見つかりません

でした。私は、見学後、水俣のようなゴミ一つないキレイな町に強い憧れを持ちました。

憧れで終わらせてしまうのはもったいないと思い、まずは学校の校舎でゴミを見つけたら拾う。ということから実践しました。最初はめんどろくさくなってしまうことが時にありましたが、少しずつ、やりがいを感じ、私を真似てゴミ拾いを一緒にしてくれる人も多くなり、だんだん楽しくなってきました。どんどんゴミ拾いの幅が広くなり、学校、家、家の周り、そして今ではおばあちゃんの家、家の周りから、散歩のときによく寄る、海のゴミ拾いも行っています。

しかし、どんなにごみを拾っても、また来たときには、もと通りになつてしまっています。おじいちゃん、

「昔はあの海でも魚がウヨウヨ泳いでいて、魚釣りもいやというぐらいしたよ。なんなら海でも軽く泳いでいたしね。でも、今では、魚釣りなんかできないくらい魚も少ないし、もうゴミが多すぎて、泳ぐなんて無理だよ。」

と言っていました。私は生まれてきてから一度もあの海で泳いだことがありません。あの海は夕方になるときれいな夕日が見えます。いつも夕日を見ながら、

「この海がゴミ一つなかったら、もつときれいな夕日が見れるのにな。」
と思っています。

一人が楽をしようとゴミを捨てると、ここならゴミがいくつつかあるし捨てていいやと、ゴミを捨てる人がどんどん増えていきます。

めんどろくさいかもしれないませんが、ちよつと家まで持ち帰り、捨てる。このことを全員がするだけで海はともキレイになると思います。水を大切にすることはもちろん環境のためになりますが、「自分のため」にもなると思います。

【入選】

水の伝統

熊本県 熊本信愛女学院中学校 三年 井上 るあ

最近、阿蘇で山火事があつたのを知っていますか。野焼きの火が飛び火して山火事となりました。「野焼きは水と何の関係があるの」と思う人もいるかもしれませんが。ですが野焼きは阿蘇の水を守るために重要なことなのです。

水は私たちの生命を支える重要な資源の一つであり飲料、農業、工業など、自然環境の維持にも欠かせない存在です。水の役割を考えたとき、意外にも「野焼き」という伝統的な農業、環境管理の手法とも大きく結びついていて、重要であるということがわかりました。

野焼きは草原や農地に溜まった枯れ草や不要な植物を焼却することで、土地の栄養を循環させ、新しい草木が育つ環境を整えるために行われる手法です。また野焼きと聞くと環境に悪いなどの意見が多くあります。環境を破壊すると思われるがちな野焼きですが、野焼きをしない方がかえって草原が荒れます。枯れた草を焼かず放置しておく、春になつてもスムーズな世代交代ができず、ヤブになり生態系が崩れて野生の動植物だけでなく阿蘇の伏流水にも影響が出ます。水は野焼きを安全かつ持続可能におこなうための鍵となります。野焼きは、草原の維持が水源保全に寄与できます。阿蘇山では、野焼きによって草原が管理され、その草原が大量の水を蓄える役割を果たしています。この水は阿蘇を源流とする九州各地の河川に供給されるための地域の水資源の維持に貢献しています。

現在は、野焼きは法律上禁止されていて、担い手が減っており、継続的に行うのは簡単ではないそうです。阿蘇では、地元で足りない分は、ボランティアで補っているそうです。それでも、野焼きは阿蘇の草原を、守るため必要な行為だと考えています。人と自然が共生してきた阿蘇の野焼きは、多くの人と熱意と努力などによって続けられています。

水は私たちの生活の中でおおく使われています。飲料にしたり、お風呂、農業などさまざまです。伝統が守られず、水がなくなってしまうと生活ができなくなります。今、安全に飲んだり使われている水をあたりまえだと思わずに感謝して大切に使うていきたいと思っています。

私はこの作文を通して初めて野焼きの理由が分かりました。野焼きは毎年のように、燃え広がりに、山火事になっていて死者も出ています。ですが、水を守るために野焼きはとも必要であることが分かりました。私達に、野焼きは出来ないけど、水の出しすぎに注意し、こまめに使ったり、私達に出来るこまめなことから、皆んなで始めていこうと思ひました。

普段、生活の中で使っている水の資源は無限だと思わず大切に使うていこうと思ひました。

【入選】

水を大切に使う

熊本県 熊本信愛女学院中学校 三年 岩下 愛

「水を大切に」、これは私が幼いころから先生や親を通して何度も聞いてきた言葉です。きつと多くの人が同じ、もしくは似たような言葉で教えられてたのではないかと思います。しかし、なぜ水を大切にすることがあるのでしょうか。また水を大切にするために私達は何ができるのでしょうか。今回水についての作文を書くにあたり、これら二つの難問について考え、自分なりの答えを出してみようと思います。

まず一つ目の難問、なぜ水を大切にする必要がありますのでしょうか。私は最初、水道代を抑えるためかなと考えました。しかしそれなら「なるべく水を使わないように」と表現すれば良いはずで、あえて「水を大切に」と表現する理由。それは水を大切に使うという言葉には、節水の意味だけではなく「なるべく汚さないように使う」という意味も含まれるからだと思います。数年前、社会の授業の中で、現在は下水道や浄水場の整備が整い、使われた水をきれいにするのに燃料や時間がかかってしまうとも学びました。多くの燃料を使うということ。それは環境に大きな悪影響を及ぼします。つまり水を大切にすることは環境を大切にすることにつながります。さらに、使った水を十分に処理できないまま川や海に排水されてしまった場合、川や海の水質悪化につながります。水質が悪くなってしまうとその地域に住む川や海の生き物はもちろん、水を必要として生きるすべての生き物の健康が危うくなってしまいます。水を必要として生きるすべての生き物、そして生き物たちが生きていく環境を守るために水を大切にする必要がありますのだと考えました。そして二つ目の疑問、水を大切にするために自分たちに何ができるのか。まず、よく言われるのは節水です。シャワーや洗濯、歯磨きなど日常の中で水を使う機会は多くあります。その一つ一つを見直し、必要ないと気づいたタイミングで水を止めること。一回で抑えられる水の量は少ないかもしれませんが、それが何度も、そして毎日続いていけば多く

の水を守ることができません。次になるべく汚さないこと。水を使う中で意識するのは節水に比べ少し難しいかもしれませんが、例えば「食器を洗う前に汚れをふきとる」「強すぎる洗剤から石けんに変えてみる」「ゴミや調理くずを流さない」などほんの少しの意識と工夫で達成できるのではないかと思います。

このように水を大切に必要性と自分たちにできることについて考えてみて感じたのは、水を大切にすることは自分にも大きく関わってくるということです。正直私は、先ほど述べた自分たちにできることを達成しきれているとは言えません。これまでの生活でたくさん水を汚し、無駄にしてきたということです。また、先ほど水を大切にすべき理由として水を必要とするすべての生き物を守るためだとも述べました。水を必要とする生き物には私たち人間も含まれます。人間は水がなければ生きていくことはできません。実際世界には水不足で苦しんでいる人々がいるそうです。だからこそ与えられた環境に甘え続けるのではなく、与えられたものだからこそ大切にしていきたいと思えます。また熊本県は水がきれいな県として全国的に有名なのだそうです。その誇りと他県からのイメージを守るために積極的に行動していきたいです。

【入選】

「限りある水」

熊本県 熊本信愛女学院中学校 三年 西村 そら

私たちは、水と大きく関わり合っています。私たちにとって水は必要不可欠です。お風呂に入ったり、水分をとったり、あるいは海水浴、プールなどの娯楽として、など様々な場面で私たち人間は水を使っています。しかし私たちが使っている水には「限り」があります。だからこそ私たちはその「限りある水」を大切に使用しなければなりません。これをふまえて今のこの世の中を見てみてください。どうでしょうか。私たちは本当に「限りある水」を大切に使うことができるのでしょうか。

この春休みに私は天草の海へ行きました。その海はとても美しく、きれいで、私はこの海の美しい海を後世まで伝えたい、守りたいと思いました。しかし、その海が私にとって今までに見てきた海の中で最もきれいかという点、そうでもありませんでした。私が見た光景の中にはたばこの吸い殻が海の水面に浮いているのが見えました。今、私たちが抱えている問題の一部に「ポイ捨て」があります。ポイ捨てをすることでそのポイ捨てした、プラスチックなどのごみが、風や川の流れによって、海へ流されることでマイクロプラスチックとなりコケと間違えて食べてしまい最悪の場合、その生き物が死んでしまうことがあります。ポイ捨ては、その場所の景観を損ねるだけでなく、海の生き物の生態系を破壊してしまうなど、沢山の影響を与えてしまうのです。しかし、ポイ捨てだけではありません。他にも、生活排水をそのまま流してしまうなど様々な原因があります。これらからわかることは、水を汚すということは様々な物に影響を与えてしまうということです。

では、どうしたらこの問題を改善することができるのでしょうか。私は、これらのことをふまえて、二つほど考えてみました。

一つ目は、ポイ捨てへの罰則を厳しくする、また、まだポイ捨てを禁止する条例を制定されていない市町村でのポイ捨てへの条例の制定するこ

とです。これに関しては私たち個人の方では何ともできないことですが、この条例政治家の人たちなど権力を持った人に伝えることかできても、今はポイ捨ての他にも沢山の抱えているし、私としてもこれよりも優先順位が高い物があるのであまりちゃんとした改善策にはならないと思いました。

二つ目は、今の現状を周りの人に伝えて行くことです。これは、私たちにとって一番チャレンジしやすい改善策です。でも大人にやるよりは、小学生など私たちより年下の子たちに伝えた方がいかなと思います。

この改善策以外にも、私たちにできることは沢山あると思います。私はこの作文を書くことによって改めて、環境問題や限りある水の大切さについて考えることができました。また、まだ知らなかったことについて学ぶ良い機会になりました。今回、学べたことを生活に生かして、この限りある水を大切にして日々を過ごしていこうと思います。

【入選】

熊本県の美味しい水

私は「水の国」とも呼ばれる熊本県に住んでいます。私は小さい頃から水道水を飲み続けてきたし、それは当たり前なことだと思っただけです。でもそれは豊富な地下水があるからこそできることだと知り、とてもびびりたのを覚えていました。熊本市は市民の水道水の百パーセントを地下水で賄っています。これはすごいことだと知り、私は小学生の頃、地域の湧水について調べました。熊本県には千か所以上の湧水があり、小生校には総合の時間にクラスのみんなで調べたりしていました。夏にはそうめん流しのイベントが行われたりしますが、普段は自由に解放されているので、友達と夏休みに行つて、水遊びをしたり、カブトムシを見たり、小川で買ったアリスを冷やしたりしていました。本当に水が綺麗で、朝から夕がたまで遊んでもあきないかったです。場所によっては、周りを木々に囲まれていたので、夏でも涼しく、石の橋や飛び石などあまり見たことのないものがあり、ちよつとした冒険に出発したような気持ちになっていました。このように地下水はあつて当たり前だと思っていました。しかし、地下水はとても重要です。

地球には十四億立方キロメートルの水があるとされていますが、私たちの周りに存在する淡水は全体のわずか約〇・八パーセントしかありません。地下水は本当に貴重です。しかし、近年、地下水かん養域が減少しているそうです。水田や畑だった土地がアスファルトやコンクリートで覆われてしまい、雨が地中に染み込みにくくなってしまうそうです。私の祖父の家は近くでも、私が小さい頃は田園風景が広がっていましたが、現在は土地開発により、新しい住宅地や、道路の建設が進んでいます。人が移住したり、道路が建設されたりして地域が活性化したり、買ひ物が便利になったりするものは、もちろん良い事だと思ふけど、一方で、豊かな田園風景が消えてしまうのも悲しいなと思ひました。最近は、

熊本県 熊本信愛女学院中学校 三年 沼尻 彩良

小さい頃はよく見ていた、ホテルもあまり見かけなくなつてしまつたり、近くの川の河川敷に大量のごみが捨ててあるのを見かけたりします。そのようなことを見ると、綺麗な水を守つていけないなと強く感じさせられます。それに、地下水の汚染も一部地域で確認されているそうです。地下水が汚染されて使用できなくなると、新たな代替水源の確保は非常に困難なのだそうです。熊本県では、水源かん養林として、以前は針葉樹を植えていたのを、現在は水源かん養能の高い広葉樹を中心に植え付けたり、白川中流域の水田は、他地域の水田に比べ五〜十倍も水が浸透することが分かつており、地域の農家の方々の協力を得て、転作した水田に水を張つてもらつて取り組みを始めています。私はこのように、地域の方々が協力して熊本のきれいな地下水を守つてくれていることに感謝をし、わたしも熊本県民として、地下水を守るために何かできることがないかを探し、この先も綺麗な水を守つていきたいと思ひました。そのために洗剤の量を減らしたり、河川敷のごみを拾うボランティア活動にも参加したいです。

【入選】

水との関わり

熊本県 熊本信愛女学院中学校 二年 杉本 理采子

「うわっ。」

思わずさげんでしまった。背中に手をあてて見ると、服がぬれてしまっていた。あわててリュックの中をのぞいて見ると、水筒の水がもれていたのだ。中に入っていたプリントや筆記用具はもう手遅れだった。あせった私は水筒を確認してみると、パッキンをつけ忘れていたことに気付いた。

「またやっちゃった。」

これで3回目だ。学校が終わって家に帰り、母にそのことを話すと、あきれられるようにして、

「だから朝確認したのにね。」

と言われた。そういえば朝、家を出るときにパッキンをつけたか確認されたのに、なんとなくて答えていたのだった。すると母が、

「それにしても水って少しの隙間があればもれたり入ってきて大変だね。」

確かに前にも建物にかかわる仕事をしている母が言っていたことを思い出した。梅雨や台風の時期になると水もれが発生しやすい。水もれはじわじわと家の天井や壁などからしみこんだり、台所の水回りにカビが生えて腐らせていく。また、水は大きな災害を引き起こすこともある。東日本大震災では、津波を引き起こし、多くの人々が犠牲となった。熊本でも、令和2年7月に豪雨が起こり、人吉球磨地方で多くの犠牲者が出た。一方で、阿蘇で降った雨はじわじわと土に染み込み、二十年ほどの長い年月をかけて、私たちの熊本市の生活に欠かせない地下水となつて、湧き出てくるのである。

このように水はいろいろな顔を持っている。水は私たちにとって、便利でなくてはならなくて、おいしくて、気持ちよくて、とても大切なものだが、私たちにとって脅威になることもある。私たちは、このかけが

えのない水と、これからも上手に末長く付き合っていかなければならない。まずは、毎朝の水筒のパッキンを確認することから始めようと思う。水への感謝を込めて。

【入選】

「熊本の水が教えてくれる世界の水問題」 熊本県 真和中学校 三年 岩村 桜子

私たちが毎日使っている水は、当たり前のように蛇口をひねるだけで手に入りますが、その背景には自然の恵みと人々の努力があります。特に熊本市は、日本でも珍しく地下水だけを水道水として利用している都市です。今回は、熊本の水と世界の水事情を比べながら、水の大切さについて考えてみたいと思います。

熊本の水は、阿蘇山などの火山活動で堆積した火山灰や砂利の層を雨水が長い時間をかけてゆっくりとろ過されることでできています。地表の汚れやにごりは自然のフィルターによって取り除かれ、においもほとんどないきれいな地下水になります。そのため、蛇口をひねればミネラルウォーターのようにおいしい水が飲めるといわれています。また、地下水は気温の影響を受けにくく、夏は冷たく冬は比較的暖かいので、年間を通して安定した水温で使える利点があります。

一方で、世界の多くの地域では安全な水を手に入れることが難しいのが現状です。現在、世界では約二十二億人もの人々が安全な飲料水を利用できないとされています。アフリカやアジアの一部では、川や池の水をそのまま利用せざるを得ず、細菌や寄生虫、化学物質によって水系感染症が発生しやすくなっています。

熊本では、きれいな地下水を守るために地域全体でさまざまな取り組みを行っています。阿蘇の火山層を利用した自然ろ過に加え、地下水位の維持を図るために雨水貯留施設や浸透ますの設置が進められています。田んぼや森林を大切にすることで雨水の浸透を促すほか、節水を呼び掛けるキャンペーンや、水源周辺での石けんや農薬の使用を控える指導を行っています。学校や家庭でも水道の出っぱなしをやめたり、雨水タンクを設置して庭やプラントの水やりを利用したりする工夫が広がっており、みんなが協力して水環境を守る意識が根付いています。

私たち一人ひとりができることとしては、歯磨きや手洗いのときに水

を出しっぱなしにしない、食器を洗うときはまとめ洗いを心がけるなどがあります。また、環境にやさしい洗剤や石けんを選ぶことで、排水に含まれる有害物質を減らすことができます。

我が家では、節水型シャワーヘッドを使用しています。当たり前のように使っていたシャワーヘッドが節水に繋がっていたということを知り、とてもうれしくなりました。

水を守るための取り組みは一人ひとりが行動が積み重なることで大きな効果を生むのではないかと思います。だから、他にもたくさん取り組みを実践していきたいです。

熊本の地下水のすばらしさを実感すると同時に、世界にはまだ水に困っている人々が多いことを忘れてはいけません。今後も熊本のきれいな水を大切にしながら、できる範囲で節水や支援を行い、世界の水問題も関心を持ち続けたいです。

【入選】

水の美味しい使い方

熊本県 真和中学校 三年 野村 桃花

「ザー！ごくごく。」
勢いよく私のコップの中に入ってきた透き通った水が私の喉を流れていく。やはり1日の始まりに飲むことのできる水は改めて美味しいと感じた。あなたは水をどのように使うときが一番美味しいと感じるだろうか。私たちが毎日つかっている、生活に欠かすことのできない水は姿、形を変えて多種多様な使い方をすることができる。たとえば、飲料水、氷、お風呂、食器洗浄、トイレなどの日常生活に使われる水もあれば、半導体の製造や化学工業などの生活の発展のために使われる水もある。水が使われているかわからないところでも、多くの場所やものに多くの水が日々使われており、私たちの生活の中で「水」という存在は当たり前になっていく。東京都水道局によると、一日一人当たりが使用する水の量は平均で221リットルとされている。水という存在が当たり前になった今ではこの数字を聞いても驚くことはないのかもしれない。しかし、国土交通省によると地球に存在している水の大部分は海水であり、そのうちの2.5%は淡水である。さらに、地下水や河川、湖沼などの水としての存在する淡水の量は地球全体の水の約0.8%。最終的に、私たちが利用しやすい状態で地球上に存在している水は0.01%しかない。それでも雨が降り、地下水で溜まることで使える水が急速に減ることはないと思われたが、思いに反して、1人が1日に使用している水の量は生活様式の変化に伴い、1965年から2000年にかけて約2倍に増加した。さらに、その期間で経済活動の拡大により生活用水の使用量の合計は約3倍増加することとなった。有名な話で聞いたことがある人も多いかもしれない。ただ、この話を何回聞いたとしても水を守るための行動を起こすことは難しいと考えられる。なぜなら、私自身も学校行事や社会問題で何度も水についての考える機会があったにも関わらず、水を守るための行動を忘れてしまい継続することが難しかったからだ。自

分自身でもどんなに小さいことでも継続すれば良いと思っていながらもなかなか継続ができなかった。この結果から私たちは、水が日常生活において当たり前であるからこそ、この先の未来を見据えて水を美味しく使っていかねばならないと思う。そこで私はこの作文を書きながら自らの目標を三つ設定し紙に書いて見えるところに貼ることにした。まず一つ目は、シャワーの時間を少なくする。二つ目は、食べ残しをしない。三つ目は水を使う際はこまめに止める。どんなに小さくて簡単なことでも行動する人が増えて、継続をしていけば必ず良い結果につながると思う。

どうすれば美味しい水を守ることができるのか、どのようにすれば私たちは水を美味しく使うことができるか、この作文をきっかけに具体的な目標を継続してくれる人や水についての関心が生まれた人が一人でも二人でも多く増えることを願っている。

【入選】

熊本の地下水を後世に

熊本県 真和中学校 三年 萩野 啓夢

今春、僕は地域限定の「半導体と地下水セミナー」に参加した。

僕が住んでいる地域は、熊本市を含む十一市町村からなる熊本地域と呼ばれ、地下水が豊富な場所にある。熊本市内の水道水に至っては百パーセントが地下水である。この熊本地域には、地下水盆という地下水を浸透・貯留するための大きな水がめがあり、その中に大昔の阿蘇山大火砕流噴火による火砕流堆積物や溶岩などの地下水を浸透・貯留させやすい地層が存在する。また、その中でも白川中流域は地下水盆の底が平らで、地下水が溜まりやすい大きな地下水タンクのような形状になっており、これが地下水プールと呼ばれる。そのような地域に住んでいるからだろうか、僕は小学生の頃から現在に至るまで、学校で何度も特別授業として地下水について学ぶ機会があった。

今回僕が、セミナーに参加したのは理由がある。それは、地下水を沢山使用するという半導体関連企業が急速に増え、熊本地域の水はどのように変わってしまうのか気になっていたので。他の地域住民の人たちも、地下水汚染や水質変化に対し不安に思っているようだった。僕はこれまで、熊本が半導体関連企業と地下水かん養に取り組んでいることとして知っているところまでは知っていた。しかし、その後どうなったのか、実際に上手く機能しているのかを聞いてみたいと思った。

セミナーでは、複数の企業の説明を聞くことができた。半導体ではなく半導体を作る装置を作っている企業や、実際に半導体を製造している企業など様々だった。僕が事前に調べて知っていたように、沢山の地下水を使った作業ということに違いはなかった。しかし、髪の毛よりもっともつと小さなものを作るために使用する水は、ミネラルを含まない超純水を使う必要があった。何百もある製造工程のうち、三から四割は水を使用する工程だったり、企業によっては汚れた空気を洗うためにも水を使うという話があった。企業は、独自に水処理システムを採用し、

廃液回収して複数回再利用していたり、使った水以上の水を返そうと、協力してもらっているかん養農家の田畑へ白川の水を引き、田植えをしたり収穫された米を会社が買い取るなど、地下水かん養事業に取り組んでいるとのことだった。

また、県としては、今後地下水取水量を削減し、代替水源がある場合は地下水ではなくそちらを優先的に活用するという指針が出されていた。今後益々工場が増えていく予定で半導体関連企業へも、竜門ダムを水源とする未利用水を地下水の代わりに活用できるように検討しているとのことだった。このセミナー直前に報道されたPFASについても触れられたが、一万種類以上ある物質のうち、検出されたのは日本で規制されていない種類だったこと、外国で規制されている値よりも低い値だったことも説明された。

熊本の水を後世に残していくために誰もが大切に守っていききたいからこそ、環境モニタリング委員会を設置していると思うので、地域住民が少しでも安心できるように続けてもらいたい。資料によると、企業が地下水を使っている以上に熊本地域の住民が地下水を使っていた。もちろん生活している人口が多いので、その結果は納得できるが、企業のせいにはばかりしてはられないと思った。今後もこういった企業と共存していくことになるので、企業には水質を守る企業努力を続けてもらい、僕たちは僕たちにできる努力を惜しまず続けていく必要があると思う。一人が一日一分の水使用を節約すると、年間約四・四トンの節水になるという。僕の家族は五人なので、まずは一人一日十二秒ずつの節水からしていく。僕はついシャワーのお湯を出しっぱなしにしてしまうので、それをやめたい。

【入選】

自然の力

熊本県 真和中学校 三年 橋之口 侑里

連日続く山火事のニュース。広がっていく燃焼の範囲。速報で流れてくる避難指示。最近、山火事が多く発生している。専門家によると、地球温暖化により空気が乾燥、それにより火事が発生し、森が焼けることで二酸化炭素が放出、そして地球温暖化が進んでいくという悪循環が起きていられるらしい。こうなる前に、なにかできなかったのかと思うが、もう手遅れだ。ただ鎮火するのを待つしかない。何日も消防や自衛隊による懸命な消火活動が続けられる中、発生から一週間後、雨が降った。たった一日、その雨のおかげで火事は鎮火した。人間の力で一週間かけても消すことのできなかった火が、一日にして消えてしまったのだ。やはり、人間は自然の力には逆らうことができないのだと感じた。雨はときに恵みとして降りそそぐが、時には私達人間に災いをもたらすこともある。熊本県は「水の国」と呼ばれるように、水と深い関わりを持つ県である。私達が普段飲んでいる水も、地下水である。私達はいつも、水の「恵み」を受けとって生きてきたが、熊本には水の「災い」を感じた出来事もある。集中豪雨による球磨川の氾濫。多くの家が浸水し、流され、命を失った人もいる。雨というものだけでなく、水そのものが上手く関ることが難しいものだと思ふ。今回の山火事の時も、インタビューの中にこんな人がいた。その人は東日本大震災の津波で家を失い、今後は津波に飲み込まれないように、山の上に家を建てた。しかし、今度は山火事によって家を失ってしまった。このインタビューを見て、私の胸はとても痛んだ。人間が自然の力に逆らえないとしても、その人は対策を考え、行動に移した。しかし、その対策が裏目に出てしまった。私達がどれだけ対策を行っても、どうしようもないことはきつとある。堤防を築いても水圧で壊されたり、それを超える水位になったりすることもあるだろう。だからこそ私達は水と上手く関わっていくことが大切だと思ふ。今回の山火事の時、「早く雨が降らないか」と思っている人がたく

さんいただろう。しかし中には「その日は予定があるから、雨降らないでほしい」と思っている人も少なからずいたはずだ。結局は考え方だけでどうにでもなるということだ。たとえ雨が降っても、この雨のおかげで救われる人がいるかもしれないと、少しポジティブに考えるだけで、私達の水に対する考えは変化していくだろう。水には「恵み」の面と「災い」の面がある。人間はマイナスの物事を大きく感じてしまう。しかし、物事にはプラスの面も必ずある。私達の生活に必要な不可欠な水。だからこそ、水のマイナス面に目を向けるべきだが、たまにはプラスの面を見ることが大切だと思う。そうしたら、もっと水と上手に関わることができると思う。

【入選】

当たり前前に慣れすぎない

熊本県 真和中学校 二年 坂本 優月

突然ですが皆さんにとって「水」とはどういうものですか？いつも何気なく飲んでいるもの？お風呂やトイレ、歯磨きの時に使う物？何に使うとしても「水」は、私たちがいつも当たり前前に過ごしている日々に必要な不可欠なものです。でも、そんないつも当たり前前に使っている水が、当たり前前に使うことができなくなったらどうしますか？

私は九年前の四月十四日、それまで当たり前前に使っていた「水」が突然、使えなくなりました。熊本地震では水が止まり、生活面でも精神面でも沢山のストレスがかかりました。洗濯はできないので、汚れても何日か同じ服を着ていました。お風呂も、もちろん水が使えないので、三日間くらい入ることができませんでした。なので幼かった私でも、結構なストレスがかかりました。でも私が一番つらかったのはトイレです。トイレも水が流れないので排泄物を流すことが出来ませんでした。その事実への衝撃が大きかった私は、そのトイレで排泄物を出すことへの抵抗を感じたため、ずっと我慢していました。その時、私は嫌というくらい水の大切さを痛感させられました。私は、ずっとずっと早く水が使える、あの何気ない当たり前の日常生活が戻ってくることを願っていました。

一週間後、幸いにも、家の蛇口をひねると透明できれいな水が出るようになりました。「やっと水がでたよ」と、とても喜んだのを覚えています。

そこで私は、長期休みなどを利用して水の科学館に行き、水のことについて積極的に調べに行ったりしました。また、小学校の時に行った水道局への見学旅行では、いろんな努力やたくさんの人達のおかげで、いつもおいしい水が飲みたい時に、使いたいときに出るのだと気づくことができました。この前、学校で受けた「くまもと環境出前講座」では熊本の海は干潟にいるアサリや、微生物がバランスよくいることで、生

活排水や有機物が入っている水がきれいになっていくことや、逆に建物がたくさん立つことで、水がしみ込む所が減っていることで、地下水の減ってきているという問題があることも学びました。

視野を少し広げてみると、当たり前前に水を使えなくて、困っている国がたくさんあることがわかりました。気になって調べてみると水不足の問題点は大きく二つに分けられるということがわかりました。一つ目は生活環境が悪化し、健康に大きな影響を与えるという点です。水不足になっている地域では清潔な水を手に入れることが困難になります。そうすると、あまりきれいな水は飲むことになるので、菌が感染したりして命を落としてしまうこともあるそうです。二つ目は農業などに影響を与えるため食糧不足になるという点です。農業でも、工業でも、何をするにしても元をたどると全て「水」が必要になります。なので、農業や工業の生産に必要な水が不足すると、収穫量も減り、工業の発展や生産も制限されます。私はこのことを調べてこの様な事実を知ったとき、とても驚きました。でも、私が調べて知識をつけただけでは何にもかわりません。でも、私が何かしようと思っても、これは世界の問題だから、私一人がどれだけ頑張っても、そんなに変わらないと思います。だから、日頃から使わない時は蛇口をしめる、洗いのをするときはなるべく汚れを落としてから洗うなど沢山の人が当たり前のことを当たり前前に出来るようになるには絶対少しづつ変わって行くと信じています。私達が使用できる水の量はもう限られています。蛇口をひねれば奇麗で、美咲しい水が出てくることは当たり前前のことではありません。この当たり前前に慣れ過ぎて感謝の気持ちを忘れていく人はいませんか？最後にもう一度あなたにとって「水」とは何ですか？

【入選】

人魚姫の物語から水について考える

熊本県 真和中学校 二年 長谷 麻央

みなさんは人魚姫のおとぎ話をしていますか。おそらくほとんどの方が子どもの頃に読んだことがあると思います。人間のような見た目と魚の姿をあわせ持ち、海を魅力的に泳ぐ人魚姫に小さいころとても憧れました。ですが、人間には海の中で不自由なく過ごすことは残念ながらできません。だからこそ、人魚姫のような存在、世界観にあこがれるのだと考えます。

これは熊本地域全体において約二五十の立地企業が使う地下水量全体の三分の一にあたるそうです。実際このTSMCの進出によって熊本県への注目度が飛躍的に上がりました。同じように経済効果も大きくなると見込まれています。またこれからの未来は必ず外国との国際的な関わりが必要不可欠になるとかんがえても、すばらしいことであるとおもいます。ですが発展を目指し行動することができるとも全ては足元に水という支えがあるからだと考えます。そのことを意識するだけでも明るい未来への立派な一歩になると思います。人魚姫が新しい世界へ行けたのも海の支えがあったからかもしれません。

ここで人魚姫のお話をおさらいしてみます。話の中で人魚姫は、私たちが憧れているのもつゆしらず人間の世界を夢見て人間の王子様に恋をします。この状況を人間世界で分かりやすく例えると身長の高い子が高い子を羨み身長の高い子が低い子を羨むような状況だといえます。これがないものねだりと言ったりもします。みなさんも経験があると思います。話の中で人魚姫は希望や憧れの気持ちを大切に海ではなく人間の世界を選びました。これは決して海が嫌いになつたのではなく、自分の中の願いを優先させたと考えます。ではそれをふまえて私たちの住む日本はどうでしょうか。私たちが今生活している周りには便利な電子機器や家電などがたくさんありますが、これらは全て先代の方々が明るい未来を求め続けた上での産物です。その良い例が高度経済成長期です。これは日本の産業や工業がおおいに盛り上がった時代を指します。高景気により国民の経済水準が大きく向上しました。まさに人魚姫が地上に上がり歩み始めたほどの躍進でした。しかし、その裏では急速な発展のしわ寄せが起こっていました。主なものは公害問題です。どれも目の前の発展や利益ばかり見てもともと持っていた当たり前の素晴らしさを見落とすしてしまったことが原因だと考えます。この問題を受けて政府は環境基本法を定め現在まで続いています。最近の身近な場面では熊本県菊陽町に半導体の巨大工場であるTSMCが進出してきました。詳しく調べてみると最大で年八〇三万トンの地下水を使用するのを知りました。こ

【入選】

世界の水不足

熊本県 真和中学校 二年 林 龍一

私は「水の都」と呼ばれる熊本県に住んでいる。熊本県は水道水源ほぼ一〇〇%地下水で担う日本最大の地下水都市だ。「蛇口をひねればミネラルウォーター」という言葉があるほど豊かな大地に恵まれた芳醇な水が身近なものとなっている。そんな熊本ではあまり実感がわかないと思うが、世界では水問題が深刻化している。その中でも特に水不足が問題となっているだろう。私はその時ふとある番組の報道を思い出した。アフガニスタンで長年に渡って水不足に苦しんでいる人たちを支援してきた医師の中村哲さんの活動である。

中村さんは、水資源を確保することが病気を治すことにつながると考え、水不足の問題に取り組んできた。その具体的な活動で一六〇〇本以上の井戸を掘ったり二五km以上の用水路を建設して彼果てた土地に緑を蘇らせたりした。その取り組みで水資源の不足に伴う感染症や伝染病の人々を救ってきた。私は医師でありながら水不足の問題に取り組んだ中村さんに感銘を受けた。水は人々の健康を支えるのに最も大切な資源であることを知り、水の重要さを改めて学ぶことができた。そんな大切な水不足する地域が世界中に多く存在することは大問題である。命が脅かされている人々が多くいるのは危機的状況であると思う。

蛇口をひねると水が出てくる。毎日、当たり前のように水を使って生活している。当たり前前に安全な水を使えるのは感謝すべきことである。調べてみると世界総人口の四〇%以上にあたる三六億人が水不足に悩まされていることが分かった。具体的な要因は大きく二つある。

一つ目は人口増加による水の使用量が増えていることだ。日本は少子高齢化が進み人口が減少しているが世界的に見ると年々人口が増加しているため、水を使用する人が増えて使用量が増加している。また、水は限りある資源であるという意識を持っていなければ将来水がなくなってしまうかもしれない。もしも自分の町で水不足になる時代が来たら今ま

で当たり前だった生活ができなくなるかもしれない、と思うと今からできることは何か考えるようになった。私も実際、手や顔を洗うときに水を出しっぱなしにする時がよくある。少しぐらい水を無駄にしても問題ないという軽い考えで何も考えずに行動に移してしまう。しかしニュースや新聞などで、水不足で苦しんでいる人が世界にはたくさんいることを知った。自分がどれだけ恵まれた環境で生活できているか実感した。と同時に世界の水不足事情を知り、理解を深めていきたいと思った。

二つ目は気候変動だ。地球温暖化で降水量が変化していることが主な原因である。気候変動は気温が高温、低温になるという気候の変化にとどまらず、水不足の問題にも影響を及ぼしている。

自分は水不足の現状を知ったことで熊本の水に対する感謝と水問題を解決しなければならぬという責任感が高まった。水に恵まれている熊本県民であるからこそ「水の国」であり続けるためにもっと水と向き合いたい。私たちが出来ることは限られているが、水資源について誰かと話し合い、客観的に考えることや水は皆が使い、生活する上で必要不可欠なものであるからこそ、自分事として水資源についてもっと知るべきである。私は手洗い、うがい、シャワー、花の水やりなど水を使用するときに当たり前前の水だと思わず、貴重な水を使っていることを意識して生活したい。

【入選】

地下水について

熊本県 真和中学校 二年 山部 瞳子

私が「水」と聞いて最初に思いつくものは、熊本の地下水です。熊本には豊富な地下水があり、他の地域と違い、水道水から天然水並に綺麗な水が得られます。

私は菊陽町というところに住んでいます。菊陽町には、二〇二四年に熊本に進出してきた企業があります。その企業はTSMCといって半導体生産の世界大手の台湾企業です。半導体とは、導体と絶縁体の中間の特性を持つ物質です。現代の電子機器やIT機器において半導体はトランジスタやダイオードなどの基本的な素子を構成し、生活家電からスマートフォンに至るまで幅広く使用されていて、現代社会には、必要不可欠な存在です。TSMCは、半導体を生産する際に使う大量の水のことで悩んでいたそうです。節水や水再生の技術向上に注力していたけれど、それでも水が足りず、「水どころ」として有名な、熊本に進出し、比較的土壌が安い菊陽町に半導体工場を建てました。

私は、TSMCが進出してくる事について町が活気づくので良いとは思いますが一つ疑問があります。それは、水不足になるほど水を使う工場ができたら熊本の大事な資源である地下水がなくなってしまうのではないかと、という事です。半導体メーカーは工場やシリコンを薄くスライスしたウエハーなどの清掃洗浄に大量の水を使用します。そのせいで台湾の半導体工場の近くの水田では基準値を超える豊地の灌漑は止められているそうです。私は小さい頃から節水し、大事に大切に守ってきた地下水がなくなってしまうという事にはなつて欲しくありません。そこで地下水がなくなってしまうように解決策を三つ考えました。

一つ目は、TSMCが半導体工業で使う水の量を制限するという案です。ですが、この案は根本的に地下水が使い切られてしまうという問題は解決しますが、規模が大きすぎて実現はほぼ不可能です。相手は世界大手の企業であることに対してこちらは学生一人だからです。でも、一

人ではできなくても協力者がいればできるかもしれません。
二つ目は、地下水そのものを増やすという案です。今も畑を使っている時期に水を張る湛水というものが二〇年以上続いているそうです。湛水することで年間千四百万トンの地下水を生んでいてTSMCはそこから六、七割の地下水を年間使います。これから、TSMCで使う水の量は湛水でまかなえていることがわかります。これから湛水する場所を増やしていけば、水で困る事はないと思います。ですが学生一人では無理です。

三つ目の案は、節水の呼びかけを強化するという案です。熊本に住んでいる人や来る人に対してする節水の呼びかけを、今よりも強化することで、家庭で使う地下水を減らすという事です。この案が一番実行するとしたら現実的です。

三つ目の案を採用する事にして、身の回りの家族や友人などに節水を呼びかけていきたいです。

中央審査会上位入賞作品

内閣総理大臣賞（最優秀賞）

人の暮らしと命を支える 宮崎県 宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校 一年 大峯 果林

栓をひねると水が出る。朝、顔を洗う。渴いたのどを潤す水をコップに注ぐ。料理をする。洗濯をする。お風呂に入る。生活のどの瞬間にも水がある。その存在は自然で、意識することはほとんどない。水があるから生活が回るということを忘れてしまっている。けれど、私は気が付いた。この当たり前が、誰かの努力によって支えられているということに。気付いて以来、水の流れる音が少し違って聞こえるようになった。

小学校四年生の夏の終わりのこと。大きな台風十一号が九州に接近し家の中にこもったが、風と雨の音が大きく響いて、不安でいっぱいだった。そんな中、父は黙って作業着に着替え、懐中電灯を手を外へ出て行った。

私の父は、市役所の水道課に勤めている。人々が安心して水を使えるように、見えないところで水を守っている。水が止まれば、昼夜関係なく現場に向かう。休日に家族で出かけているときでも、水に関わる一大事を察知すると急いで引き返して現場に向かうこともある。台風の接近はまさに一大事だ。父が嵐の中へ出て行ってしまおうのが不安でたまらなかつたけれど、びんと背筋の伸びた父の背中を見たら、何も言うことはできなかつた。

翌日、帰宅した父は疲れた顔をしていたが、私の目を見ながら話をしてくれた。台風之夜、病院のある地域で断水が発生したという。

「病院の断水を復旧できて本当に良かった。想像して。病院が断水になると医療に使う水が足りなくなる。つまりそれは……。」

「命に関わる……。」思わず言葉が出てはつとした。水は生活に必要なだけではなく、人の命に欠かせない存在なのだ。水がなければ、治療も消毒もできない。薬を飲むこともできない。手も洗えずうがいもできず、感染症のリスクも高くなる。水がないことで、守れるはずの命が守れなくなる。思わず父の顔を見た。父の目はまっすぐ前を向いていた。そし

て、以前父が話していたことを思い出した。

「日本では、水を使えることが当たり前になりすぎていけるせいか、この仕事をしていて感謝されることはあまりない。水が使えなくなつて初めて水の大切さに気付いて感謝する。」その言葉の意味がようやく理解できた。

私には水道管を直すことはできないけれど、水を無駄にせず、感謝して使うことはできる。水の一滴一滴が、水のために働く人たちの技術と努力、そして強い責任感によって届けられていると知つた今、小さな行動にも意味があると感じている。学校では「水は限りある資源」と習つた。でも私は、水はそれだけでは語れないということに気付いた。水そのものだけではなく、水を支える人たちの知識や技術、経験、使命感をもつて働く姿もまた、私たちの暮らしと命を守る大切な資源だ。例えば「台風」という災害があつたとしても、水を支える人の「水を止めない」という思いが、水をつなぎ、安心を生みだしている。自然と感謝と尊敬の気持ち私の心に広がつていった。水の波紋が広がるように。

そして、改めて考える。今、地球では気候変動が進み、水不足や災害が増えている。水を守る仕事の価値は、これから更に大きくなっていく。どんなに技術が進化しても、それを動かすのは人間の想いと未来を見つめる使命感だ。父は今日も人々の暮らしと命のために働いている。決して目立つ仕事ではないが、未来を支える確かな力になっている。私もいつか、目立たなくても誰かを支える人になりたいと思う。今、私は水を大切に使い続ける気持ちは誰にも負けない。小さなことでも自分ができることを見つけて行動したい。たった一滴の水でも、命の水になれるのだから。

ふと顔を上げると、母が台所で流す水の音が心地よく私の耳に響いてきた。

農林水産大臣賞（優秀賞）

水との関わり

福島県 矢吹町立矢吹中学校 二年 諸根 さつき

私の家は畜産農家で、黒毛和牛を育てています。牛を育てるためには、水が必要不可欠で、私の家では地下五十七メートルから地下水を引き、約三百頭の牛がその水を飲んでいました。

私も幼いころから牛の世話をよくしていましたが、牛は汚れた水を絶対に飲まないで常にきれいな水を飲める環境を保たなければなりません。その他、牛を育てるためには、稲わらがらが必要で、田植えをして、米を育て、収穫した後のわらを集めて牛に与えています。

米を育てるためにも水を欠かす事は出来ません。

水は天からの贈り物で雨や雪が降らないと農業は成り立ちません。自然の恵みで私達は生かされています。しかし、時にその自然が猛威を振るう事があります。

令和元年十月、私が小学二年生の時に台風十九号が日本列島に上陸し、私の家も甚大な影響を受けました。家の周りの川が決壊して氾濫し私の家と牛舎は川の濁流にのみ込まれました。私と姉達は避難していました。両親は、川が氾濫する直前まで牛達を高台に移動したりトラックに出来るだけ牛を詰め込んで一頭でも多く牛を助けるために手を尽くそうとしましたが、全頭助ける事は出来ませんでした。残された牛は生き延びた牛もいましたが、濁流に流された牛、牛舎の中で残酷な姿で亡くなった牛も少なくありませんでした。水の力はとてつもなく、牛舎の中は沢山の流木やがれきや刈り取った後の稲わらなど、その他沢山の泥で埋め尽くされていました。

牛舎や家の壁には二、三メートルの高さのある水害の跡が残っていました。幼かった私には、その状況を直ぐに受け入れる事が出来ず恐怖と悲しさで全身が震えた事を覚えています。

きれいな水を牛に飲ませるために母親の実家から祖父が何度も水を運んで牛に与えました。あの時の美味しそうに水を飲む牛の姿は忘

れる事は出来ません。

牛舎の蛇口からきれいな水が出るまで数日かかりました。私も一頭一頭に水を飲ませる手伝いをしましたが、本当に水は貴重だと子供ながらに痛感しました。

あれから月日が経ち、我が家は困難を乗り越え両親は牛を水害から守るため高台に牛舎を建て日常を取り戻し、米、野菜を作り、牛を育てています。

現在世界各地で自然災害が起こり、苦しんでいる人々が沢山います。地球温暖化の影響だと言われています。これから先の地球の環境を良くするための行動を再認識して私が出来る事、節水、節電などを常に心がけて生活したいと思います。

水に感謝をして。

経済産業大臣賞（優秀賞）

水と龍といのちをつなぐもの

千葉県 翔凜中学校 一年 江口 明祐希

私達の生活に欠かせない「水」。毎日あたり前のように使っているけれど、水がどこから来て、どんな思いがこめられているのか、意識することとはあまりありませんでした。今回、水について自分で調べてみて、自然や神さま、そして地域の人々の思いが深くつながっていることに気づきました。

私の住んでいる千葉は、利根川水系の水に支えられています。利根川は、群馬、埼玉、千葉、東京など、関東の広い地域に水を届けている大きな川です。山に降った雨や雪が長い時間をかけて川となり、ダムにたまり、水道管を通って、わたしたちの家庭に届いています。この水がなければ、料理も洗たくもできないし、お風呂にも入れません。水があることが、どれほどありがたいかをあらためて実感しました。

調べていくと、水と信こうが深く結びついていることもわかってきました。昔の人は、水には神さまの力がやどると考えていて、特に「龍神」という神さまが大切にされてきました。神社やお寺のちようずやでは、龍の口から水が流れていて、それで手や口を清めてから参拝します。自然と共に生きてきた日本人の感謝の気持ちのあらわれだと思えます。

私がとても感動したのが「忍野八海」という場所の話です。山梨県にあるこの場所には、富士山に降った雪が何万年もかけて地下を通り、ろ過されてわき出した池があります。その水はとてもすき通っていて冷たく、まるで龍の息づかいが聞こえてくるようです。昔から人々はその水を生活に使いながらも、神さまの宿る場所として大切に守ってきました。水を「ただの資源」ではなく、「神聖な存在」として見つめる日本人の心が、そこには今も息づいています。

こうした信こうは、遠い場所だけのものではありません。実は、わたしの通っている学校、翔凜中学校のしきちにも「浅間様」がまつられています。この神さまからの水がわいて出ているのが、学校の下にある「大

堰」であると言われていて、地元の人たちが昔から稲作や生活用水に使ってきたと知り、とてもおどろきました。私が毎日通っている学校の場所にも、神さまが生み出す水と人々の信こうがあるのです。

そして、その水への感謝の気持ちを伝えるのが「神さまのお祭り」です。水を与えてくれる自然や神さまへの感謝、それを守ってきた地域の人たちの思い。お祭りは、にぎやかで楽しいだけでなく、そうした心を伝える大切な行事だと気づきました。

今、地球温暖化の影きようで、世界中で水不足の問題が起きています。雨の降りかたが不安定になり、ダムの水が足りなくなることもあります。また、私達の生活を支えるAIやクラウドなどの技術も、便利な一方で多くの電力や水を必要とすることを知っておどろきました。特にコンピュータを冷やすための水の使用量はとて多く、私達が気づかない所で自然に負担をかけているのです。

便利な技術は生活を豊かにしますが、自然や資源を守る意識がなければ未来は苦しくなってしまうです。技術の恩けいとその裏にある影きようを見つめることも、わたしたちにできる大切な学びです。環境を考えると、ただ「守ろう」と言うだけでなく、自然に神さまがやどると考える心が大切だと思います。山や川、木にも命があり、敬意を持つことで、自然と人はもっと仲よくできるはずです。

水は、いのちをつなぐもの。自然と人、人と人をつなぐもの、そして、見えないところで龍の力が流れているかもしれない、そんな神び的な存在です。これからも神さまに、水にかんしやし、自然を大切にしながらいきたいと思えます。

国土交通大臣賞（優秀賞）

水でつながる大きな家族の一員として

神奈川県 逗子開成中学校 一年 風間 修羽

僕は、一昨年の秋の草刈りから始まって、去年一年、南アルプスの麓にある田んぼで米作りをする機会を得ました。その田んぼは、棚田の一番上の場所にあつて、川の取水口の開け閉めや、取水口に落ち葉や木が詰まったら掃除をするのも、その田んぼ仕事の一つでした。

田んぼから取水口までの道のりは、珍しい山野草などが生えていたり、風向きによつては獣の匂いがしたりするような森の小道でした。地元の人々が、「ここは熊が出るよ。」と言っていたので、少し緊張しながら、父や兄と大きめの声で話しながら向かうのですが、この大きな森全体から水を分けてもらいにくんだという気持ちが出て、とても特別な仕事のように感じられ、僕の好きな仕事の一つでした。

川から引かれてきた水は、とても冷たいのですが、田んぼに入るとどんどんぬるくなっていきます。場所によつて、水の温度も違つて、その温度の違いによつて稲の生育の差が見えたり、生えている草の種類が違つたり、集まっている生き物が違つたりするのも興味深かったです。

この田んぼに引かれている水がどこから来るのかが知りたくなり調べる内に、流域地図というものがあることを知りました。流域地図というのは、河川に流れ込む降水の降り集まる地域を表した地図です。その地図によると田んぼに引かれている水は、富士川水系であるということがわかりました。流域という視点で土地を見ると、山の尾根が、流域の境になつているということがわかりました。

僕が、家族と一昨年登った仙丈ヶ岳の山頂に降つた雨は、東側なら富士川に流れ、西側なら、天竜川に流れる。大地の凹凸が水の流れを決めていて、尾根に囲われた区域が、まるで一つの水でつながつた大きな家族のように感じられました。

僕たちの田んぼを潤してくれた水は、水路を通つて、隣の田んぼに流れ込みます。その水はまた、その次の田んぼに流れ込み、そうして順番

に全ての田んぼが潤されていきます。稲作というのも、水の流れで繋がつた家族みんなの命の糧を生み続ける営みなんだということがわかりました。

僕が暮らしている地域は、流域の視点から見ると下流域にあります。そこには住宅やビルが立ち並び、たくさんの方が住んでいます。田畑はそれほど多くありません。飲み水も食べ物も少し離れた地域から届けられてまかまかまわっています。けれども、水でつながつた家族の一員であることには変わりありません。

上流に住み、今まで水源を守つてくれた人たちの高齢化が進んでいます。命を支える水を共有する大きな家族として、下流の人と上流の人が一緒に豊かな水を守り続ける事ができる仕組みを作っていきたいです。

暑い中での、田んぼの中や土手の草取りは大変でしたが、よかつたのは、時折水の上をととても涼しい風が吹いてくること、そして何より蚊がいなかつたことです。たくさん飛んでいたトンボが食べてくれたのではないかと思えます。そして、秋の収穫時に、稲穂が波のように風に揺れ、その上をたくさんさんのトンボが飛んでいる光景を見た時、古事記で日本のこのことを「豊葦原の瑞穂の国」と呼んでいた、本州のことをトンボの姿をイメージして「秋津島」と呼んでいたりするの、こういう光景が全国に広がっていたからなんだなと思いました。そして純粋に美しいなと思いました。

今私たちが豊かな水を使えるのは先人たちの努力のおかげです。水でつながる大家族の一員として、先人たちの思いを引き継ぎ、未来へ豊かな環境を届けることは、今を生きる私たち一人一人の使命ではないでしょうか。

環境大臣賞（優秀賞）

僕が守りたい風景、きれいな水

滋賀県 近江兄弟社中学校 一年 福岡 京

僕の小学校の裏には、小さな川があります。そこでは五月下旬から六月中旬にホタルを見ることが出来ます。家の近所には小さなエビがたくさんいるところや、田んぼに続く用水路にはザリガニがとれる特別な場所もあります。僕は生き物と自然あふれるこの町が大好きです。

ホタルを守る取り組みについて、看板が川岸に立てられています。産卵の時期には、あえて草刈りをひかえて、地域の方々が繁殖を守る活動をしてくれているようです。そのおかげでホタル鑑賞ができています。その時に聞いた話では、ここはホタルのエサとなるカワニナや草木、砂もあり生息するのに最適な場所であること。また、滋賀県に生息するゲンジボタルは卵から成虫になるまでに約一年かかり、成虫の間は水しか飲まず、メスは産卵した後は二、三日で一生を終えることでした。幼虫の約十ヶ月間、水の中でカワニナやタニシなどを食べながら成長していきます。一生の大部分を水の中で生きているので、きれいな水とエサが豊富であることが大切だとわかりました。たくさん小さな光が飛び交いながらゆらゆらと幻想的な風景を見て、僕は自然の大切さと、このきれいな水を守りたいと思いました。ただ、僕が小学一年生の時に見たときから比べるとホタルの数が年々減っているような気がしました。

小学三年生の時、河辺いきもの森で里山保全に参加しました。夏の活動では水質保全や自然観察の目的で、川に入りました。その時に水の生き物を知り、水はどこからどうやって来ているのかを、勉強をしました。その時の僕は、難しい話よりも目の前にある川でサワガニを発見したり、水生昆虫をつかまえることに夢中でした。今となっては、生き物がたくさん生息している環境がとても大事であることに気がつき、その経験がきれいな水とは何なのかを考え始めるきっかけとなりました。

「本当にきれいな水とは何なのか。」人間にとつて、飲める水こそが、きれいな水かもしれないませんが、生き物にとつてはきれいな水とは言えないのではないかと。水道水は殺菌作用がある塩素が使われています。さらに、この森の川のことを調べました。もちろん水道水は使わ

れていません。えちがわ愛知川の川底の砂利層により自然に浄化されたものを伏流水といい、それがわき水となって、森のあちこちに小さな流れが川になっているそうです。その仕組みをやっと理解できました。生き物たちにとつてきれいな水とは、有害物質の含まれていないこと、もちろん、エサとなるプランクトンが豊富にあることもきれいな水の条件です。植物、海や川底で生きる魚たち、昆虫、動物たちにとつてそれぞれが、安全に暮らせる水、きれいな水はひとつではないと僕は思います。

そのためにできることもひとつではないのです。そこで、家族できれいな水にするためにできることを考えました。僕ができることは、外出先や川などにゴミを捨てない。ゴミがあつたら拾う。食べ残しをしない。食器の汚れはふき取って、歯をみがく時も水を止めてむだにしない。洗剤を使いすぎない、お風呂やシャワーの時もむだにしない。今日からできることを始めることです。日ごろから、水に困っていないと、つい水の大切さを忘れてしまいます。

きれいな水を守りたい。みんなできれいにしようとする「想い」を忘れないようにしたいです。ひとりひとりが水を大切にすることができれば、その水を取りまく環境を守ることが出来ます。この先、自然や生き物、人間たちがうまく共生し続けることで、十年後二十年後にホタルがたくさんいる風景を見ることが出来るはずだと思います。僕も自分から水の大切さを発信し続けたいです。

全日本中学校長会会長賞（優秀賞）

生かし生かされる

長崎県

長崎大学教育学部附属中学校

一年

小嶺 彩

顔を洗うこと。ほかほかのご飯を食べること。歯を磨くこと。温かいお風呂に入ること。そして、水を飲むこと。これらは私たちにとって当たり前で、なくてはならないものであり、これらには全て「水」が関わっている。

「蛇口をひねれば水が出る」

私は今まで、ごく普通の当たり前のことだと思っていた。でも、社会の現状はどうだろう。私たちがきれいでおいしい水を飲んでいる瞬間、どんなに汚くてもその水を飲むしかない人がいる。私たちが自動販売機で水を買っている瞬間、世界には安全な水を手に入れられない人がいる。そう考えると、「水」とは、決して当たり前ではないことを痛感する。

水がどれほど大切なものか。私はふと曾祖母の話思い出した。私の住む場所から、ある世界遺産が見える。それは、「端島」通称「軍艦島」だ。明治から日本の近代化を支えたその島は、もともと岩礁だったため、水の確保は非常に難しいことだった。長崎市から船で運ばれる配水が、飲み水や洗濯用水などに制限されることもあった。水が貴重な資源だったからこそ、島民全員が節水に取り組んでいた。最終的には、日本初の海底水道が設置され、水の確保ができるようになった。曾祖母はその島に住んでいた友人がとても感激していたのを覚えていて、と言っていた。長崎の歴史から探っても、水は、昔から貴重なもので、私たちの生活に欠かせないものだったことが分かる。だが、「欠かせないもの」というだけではない。

「長崎大水害」。これは、今から約四〇年ほど前の、二九九人が犠牲になった災害だ。土石流、がけ崩れ、河川の氾濫などにより、倒壊・浸水など多くの家にも被害が生じた。私は、学校でも学習し、担任の先生や両親、祖父母から実体験をきいて恐怖を感じた。「水」とは、私たちの生活に「欠かせないもの」で、私たちの生活を「脅かすもの」でもある。

もう一つ私が伝えたい水の表情、それは癒しでもあることだ。長崎県の島原市を訪れた時、私はそれを実感した。島原市は、水がきれいな町として有名だ。現在島原市には五〇か所を超える湧水地がある。そんな島原市で私は、信じられない光景を目にしたことがある。それは、車道の脇の水路を鯉が泳いでいたことだ。私が先に感じたのは、癒されるといふよりも、驚きだった。今までそんな光景を一度も見ることがなかったからだ。調べてみると、島原市では、定期的な清掃が行われているそうだ。水路を鯉が泳ぐ、という美しい光景を目にすることができるのは、地元の方々の努力があつてこそなのだと思う。

私たちの生活に欠かせないもの。私たちの生活を脅かすもの。私たちを癒してくれるもの。そんな「水」に、私たちはどう関わっていくべきなのだろうか。私は、「水との共栄」が大切だと考える。互いに助け合い、栄えていく。私たちは水を使って生活する。でも、無駄にせず大切に使うことで、水と共栄することができ水に寄り添うことができると思う。

水を改めて考えていくと、当たり前だけど、ありがたいことに気付く。私の何気ない日常にも数多くある。私は習い事のダンスで、一時間以上練習すると喉が渇く。水を飲むと自然に「おいしい！」と言葉が出るくらい生き返る。このような何気ないことでも、水と生命が直結していることを感じる瞬間だ。

世界には、水を簡単に手に入れられない人がたくさんいる。私たちにできる最大限のことは、長崎大水害に関わらず津波など、災害の教訓を伝えることで、水がどれだけ大切なのかを知ること。水を決して無駄にせず、傷つけないこと。そして、多くの人に水が届くように支援すること。この三つだと思う。私たちの豊かな生活ひとつひとつに感謝し、これを今、多くの人へ、そして次の世代へとつなげていきたい。

水の週間実行委員会会長賞（優秀賞）

メダカが活き活き泳ぐ川

京都府

京都先端科学大学附属中学校

二年

楠本

健琉

僕は生き物が好きだ。春にはメダカ、夏にはカブトムシやクワガタを捕まえて飼育している。ふと考えた。カブトムシやクワガタは京都市内でも見つかるのに、メダカがない。なぜだろう？

僕がメダカを探るのは、京都府北部にある祖父の田んぼの用水路だ。京都市内との違いは何だろう。祖父に尋ねると、「メダカはきれいな水でしか生きられへん。ここには、皆が食べるお米を育てるための澄んだ水と豊かな自然があるからメダカもたくさん育つんやで。」と教えてくれた。僕はハッとした。メダカが暮らせるかどうかは、水の清らかさにかかっているんだ。「じゃあ、鴨川の水がもつときれいになればメダカも住めるん。」と尋ねると、祖父は「そやで。」と力強く答えた。

ネットで調べると、メダカは京都府のレッドリストに載り、絶滅危惧種に指定されているという衝撃的な事実を知った。本来、どこにでもある普通の魚だったが、今では府内の生息地も限られ、京都市内ではほぼ絶滅状態にあると書かれていた。ショックだった。さらに調べると、かつて絶滅したと考えられていた深泥池で、奇跡的に発見され、今は保護活動が進められていることが分かった。一年前学校の探究活動で深泥池に行った時には見つけれなかったが、確かにいるんだ。

なぜメダカはこんなに減ってしまったのか。理由は三つ。一つ目は、生息地の消失。都市開発で田んぼや小川が減り、住める場所が失われた。二つ目は、水質汚染。農業や生活排水で水が汚れ、メダカが生きるのに適さない環境になった。そして三つ目は、外来種の侵入。ブラックバスやブルーギルがメダカを捕食し、生息を脅かしていた。このままでは、メダカは本当になくなってしまう。

何かできることはないか。僕は祖父の庭にある大きな水鉢でメダカを育てることにした。用水路でメダカを捕り、水鉢に入れた。けれど、しばらくすると水が濁り、メダカの動きが鈍くなった。このままではダメ

だ。まず、水草で酸素を増やし、ろ過砂利を敷いて水の汚れを減らした。また、別の水鉢にためた雨水を利用してカルキを抜いた自然な水を入れるようにした。メダカは元気に泳ぎ回るようになり、卵を産んだ。共食いしないよう、卵を別の容器に移し、更に幼魚用の環境も整えた。それぞれに雨水が流れ込むような装置も作った。手間はかかったが、百匹を超えるメダカが育った。この経験から、僕は「水を美しく保ち、環境を整えることでメダカの命をつなぐことができる」と実感した。

その後、さらに身近な水環境にも目を向けた。夏休みの自由研究で近所の公園のビオトープを調べてみた。アメンボウやタガメ、水カマキリが生息する場所で二週間。数か所で水を採取し、顕微鏡で観察したところ、流れのある場所にはミジンコやアオミドロなどの微生物が豊富にいたが、流れのない淀んだ場所ではヘドロがたまり、生き物がほとんどいなかった。この違いから、水の循環が生態系にとって重要であることを学んだ。

僕はこの体験を通して、日常生活でも水を守るためにできることがあると気づいた。例えば、家や学校で水を無駄にしないこと、雨水を水やりに活用することなど、小さな工夫の積み重ねが水環境の改善につながる。京都でも水環境を整え、メダカや蛍、アユ、オオサンショウウオなどを守る活動が行われている。僕もその活動に参加したい。一人一人ができることは、小さな取り組みでも、人間の体の六十%、魚は七十五%が水でできている。すべての生き物の命を支える水を大切にすることが増えれば、メダカが住める場所も、僕たちが快適に暮らせる環境も広がっていくはずだ。僕の夢は、いつか京都市内の川で再びメダカが元気に泳ぐこと。そのために、水を守る活動を広げたい。

独立行政法人水資源機構理事長賞（優秀賞）

水道への感謝と僕の決意 石川県 学校法人稻置学園星稜中学校 一年 吉田 喜一

僕は今まで、水道についてあまり考えたことがありませんでした。「蛇口をひねる」という言葉がありますが、僕が思いうかべる水道、特に手洗いのイメージは、センサーに手をかざすと自動で水が出てくるタイプです。場所によつては、お湯が出てくる場所もあります。便利だなあとは思っていたけど、それが特別なものだとは思っていませんでした。

今回この作文を書くにあたり、日本の水道の仕組みを考えると、非常に優れた技術だと改めて思いました。

僕は昔のことを考えてみました。人々の暮らしを考えた時に、最初に思い出したのは桃太郎のお話です。おばあさんは川で洗たくをしていました。つまり、水道はまだ無かった事が分かります。次に思い出したのは、トトロです。作中では、井戸水を使って炊事をしています。その次に思い出したのは、ドラえもんです。のび太のママは、水道のある台所で料理をし、洗たく機で洗たくしています。

桃太郎の時代背景は、室町時代末期から江戸時代初期頃とされています。トトロの時代背景を調べてみると、昭和三十年代初頭とのことです。約七十年前ということになります。ドラえもんのアニメがスタートしたのは、一九七九年です。今から四十六年前です。

つまり、トトロの時代からドラえもんの時代までの三十年弱の間に、水道をはじめ、人々の暮らしが激変していったことが分かります。この三十年間は、高度経済成長と呼ばれる時期と、日本の公害病の問題が深刻化した時期と重なることも分かります。日本の水の安全がおびやかされた時代です。

この時期を乗り越えてくれたおかげで、僕達の世代は、水が安全ではないものかもしれない、とは考えたこともなかったのだ、と思いきらされました。

「安全」とは色々な意味で捉えることができます。公害にさらされて

いるものではない、という意味と、地震などの災害時にでも「出なくなる」という心配がない、という意味、それから、「無くなる心配がない」という意味の安全だと僕は考えました。

能登半島地震発生時には、大規模な断水が長く続いたことは記憶に新しいところだけど、それでも、様々な公的支援や、水道に関わる施設の人々、暮らしていた人々の工夫や苦勞のおかげで、少しずつ前に進んでいると思います。僕にはまだ感謝することしかできないけれど、水道が出なくなるなんて考えもしない、危険だから直接飲めない、なんて考えもしないで生活してこられたことに、改めて感謝しなければならぬ、と思いました。

僕達の世代は、「どんどん作れ！どんどん増やせ！」という時代ではありません。保育園の頃にはすでに「エコ」という言葉は知っていたし、SDGs、サステナブルという言葉も小学校で習いました。「限りある資源をどう守るか？」という時代です。

僕が小一になった時、過去最少人数の新一年生、とニュースになったそうです。年々人口が減少していることが分かります。人口が減少している中で、水道に関わる職業を選ぶ人、となると、更に割合は減ることも想像できます。そうなると、水道の安全を維持するのが難しくなる日がくるかもしれません。そう考えると、人も資源といえます。

水の未来は、僕達一人ひとりが担うのだ、守られるだけでなく、守るにはどうしていくべきか、考えていきたいと思っていました。今すでに、待ったなしの環境問題や人手不足の問題にさらされています。僕が社会に出るにはまだ時間があるけれど、水道に関わる皆さんの皆さんへの感謝の気持ちを勉強に注ぎ、しっかりと納税できる人になっていきたいです。

シャワーズ賞（優秀賞）

生き物との共生のために

福井県 福井市大東中学校 三年 三木家 杏珠

私は「水」という言葉を聞くと必ずと言っていいほどに田んぼが思い浮かぶ。私の家は福井市の市街地から約四十分車を走らせたところに位置する上味見という場所で、無農薬栽培米を育てる活動に参加している。そこは私の住んでいる場所とは正反対と言ってもいいような自然豊かな地域だ。私は毎年、稲作の時期になると、家族とともにその活動の一環である草取りに参加している。今だからこそ、農作業の戦力として参加しているが、小さな頃は、ひたすら生き物採集をしていた。父といっしょにヘビをつかまえたり、サワガニやオタマジャクシ、カエルを探していたのも楽しい思い出だ。

稲作は、田植えが始まる春から、稲かりをする秋にかけて行われる。この中で一番大変なのが「夏」の農作業だ。その活動では、米を無農薬で育てているため、手作業で草むしりをしなければならぬ。真夏の日差しに背中をジリジリと焼かれながら、腰をかかめた体勢で作業し続けるため、想像以上に重労働だ。おまけに次の日には、全身が動かなくなるほどの筋肉痛におそわれる。しかし、私はこれほどの悪条件でも、田んぼに足を踏み入れるのを嫌がったことは一度たりともなかった。私には農作業の後に一番楽しみにしていたものがあつたのだ。それは「こしよらずの滝」での水浴び。同じ田んぼ仲間にも教えてもらったのがきっかけだ。初めてこしよらずの滝を目にした時の感動は今でもよく覚えている。見たことがない程に澄んだ冷たい水。そしてサンショウウオと初めて出会ったのもその時だ。サンショウウオという存在を知らなかった私は、母の呼び声でそのことを忘れ、車に戻った。

再びそのことを思い出したのは、近くの温泉で疲れをいやしていた時だった。ふと目に入った掲示物。そこにはついさっき目にした小さな生き物が写っていた。絶滅とサンショウウオの二つのキーワードが目飛び込んできた。そう、先程見た生き物は絶滅の危機にさらされているサ

ンショウウオだったのだ。

私は家に帰ってすぐさまパソコンに向かい、その二つのキーワードを打ち込んだ。すると、その要因の一つとして、「農耕地の放棄に伴って起る産卵場所の消失・悪化」が最も多いことが分かった。里山の稲作では、ため池が作られ、水田の周囲には水路がめぐらされる。このような場所にサンショウウオは産卵するため、水田が一つ減るごとに、サンショウウオの絶滅に一步近づいてしまうのだ。

それは私の住む地域でも着々と進んでいる。元々水田だった土地がうめ立てられ、一つまた一つと家が建っていく。人間にとって住みよい街になる一方で、サンショウウオ達生き物にとっては生きられない街と化する。

そんな私達に今求められているもの。それは「共生」だ。私達が今住んでいる場所を水田に戻すことは難しい。しかし、今ある水田を守り、今サンショウウオの生息が確認されている場所を保護することならば可能なのではないだろうか。

水田を守るために私にもできることを考えてみる。それは、「無農薬栽培の田んぼの保存活動に参加し続ける」ことだ。水田を守り続けることは、サンショウウオだけでなく、お米を主食とする私達日本人の生活を守ることもつながる。また、水田が減り続けている要因には、便利さを求める心だけでなく、担い手不足も挙げられる。農業を始めるには高額な初期費用がかかり、また天候に左右されやすく、収入も安定しづらい。そんな中でも農家さんは水田を守り続けてくれている。私はこれからも水田を守り続けている人々への感謝の気持ちを忘れず生きていくことを心に誓った。

中央審査会特別賞（優秀賞）

川の始まりと水の未来

滋賀県 東近江市立能登川中学校 三年 谷澤 あかり

みなさんは「川の始まり」を見たことがありますか？

私が住んでいる滋賀県では小学四年生になると「やまのこ」と呼ばれる森林体験学習があります。やまのこでは、近くの山や森に行き、間伐体験や森林散策を通して自然の大切さや保全活動の意味などを学びます。

私も四年生の時に市外の山でやまのこ学習を受けました。森林散策で遊歩道を歩くとやがて岩肌から水滴が滴る場所に着きました。

案内人のおじさんが私たちの方を振り向いて説明を始めました。

「皆さん、この岩から滴っている水滴が見えますか？これは、川の始まりです。山に雨が降ると雨水が土の中に染み込みます。雨水は何十年もかけて土の中を通り、こうして地表に出てきて、川になるんですよ。山は沢山の雨水をためるので「緑のダム」とも言われています。緑のダムによって雨水は濾過されてきれいになるんですよ。山と水は深くかかわっていて、きれいな水を守るには、健やかな山を守ることが大切なのですよ。」

私は目の前で滴る水滴がやがて川になり、湖に流れ、海の一つとなり、また雨として降る長い過程を想像して、水の雄大な旅に感動しました。

やまのこで川の始まりに会ってから、私は環境保全活動に興味を持つようになりました。

一昨年の春から、年に一回行われる近所の川の清掃活動に参加しています。活動では主に外来種の水草抜きや川底に溜まったヘドロの掻き出しなどを行っています。

清掃活動が始まり、早速スコップで泥を掻き出そうとすると泥の中からカットンと硬い手がたえがしました。何だろうと思つて水中からそれを引き上げてみると、なんとジュースの空き缶でした。驚いて周り

を見ると、私の他にもゴミを持っている人は何人かいました。その後も所々でゴミを見つけ、いつのまにか活動内容の中心はゴミ拾いへと変わっていききました。活動が終わる頃にはなんとゴミ袋四袋分のゴミが集まりました。

私は身近な環境が人によって汚されていたことを知り、心が痛くなりました。今日拾ったゴミやこれまで川を流れていたゴミが環境に大きな悪影響を与えたことを考えると恐ろしくて鳥肌が立ちました。

清掃活動を行った翌日、川を見に行くとマガモの親子、シラサギ、ホンモロコの群れなどが見られました。心なしか、川の生き物たちも

きれいな川に喜んでるように見えました。私はその瞬間昔見た「川の始まり」を思い出し、川だけでなく水の旅路全てをきれいにしたい、人間を含む、水と共に生きている生き物を幸せにしたいと思いました。

私は水を守るためにわたしにもできることを一つ考えてみました。

一つ目は森林を育て、「緑のダム」を豊かにすることです。植樹体験や間伐体験に積極的に参加し、きれいな水源の源となる健やかな森林を育てていきたいです。家族や友達、地域の方にも呼びかけ近くの山から健やかに活性化させたいです。

二つ目は水の大切さを様々な人に教えることです。水に関するポスターを作って公民館や市役所など公共の場所に掲示したり、水についてのクイズなどをSNSに投稿したりすることで多くの人に水に関心を持ってもらいたいです。

私は四年生の頃に見たあの小さな雫を今でも覚えています。いったん「緑のダム」に染み込んだ水が濾過されて再び地表に流れるには四十年ほどの月日がかかるそうです。今私たちが汚した水も、大切に使った水も、長い月日を経て未来の私たちに戻ってきます。私は水を守りたい。私が大人になっても、川の始まりの雫が美しく輝くように。

「水の日」・「水の週間」について

「水の日」及び「水の週間」については、昭和52年5月の閣議了解を基にその行事等を実施して参りました。諸行事の実施により我が国の水問題の解決を図り、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することを目的に、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている8月の初日である8月1日を「水の日」、この日を初日とする一週間を「水の週間」としております。

「水の日」及び「水の週間」について

閣議了解
昭和52年5月31日

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年8月1日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

平成26年3月に水循環基本法が成立しました。本法律では、水が健全に循環し、そのもたらす恵沢を将来にわたり享受できるよう、水循環に関わる施策を包括的に進めていくことが不可欠であるとされました。また、同法第10条において、「水の日」が8月1日と規定され、国及び地方公共団体は水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならないとされています。

水循環基本法（平成二十六年法律第十六号）

（水の日）

第十条 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。

2 水の日は、八月一日とする。

3 国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

全日本中学生水の作文コンクールは、広く国民が水の重要性についての理解と関心を深めるための普及行事として、「水の日」・「水の週間」行事に位置付け実施しているものです。



©2010 熊本県くまモン
水の国くまもと

発行者：熊本県
所 属：環境立県推進課
発行年度：2025年度